

4000名山記 2019年

○年末年始 10日連続の山歩き 広島・山口・福岡の山々 その2

○12/30 広島西1山、山口東(2山)雨のち曇り

○「弥山」9:30~12:00(2:30)紅葉谷ルートを往復。フェリーで宮島に行き、小雨の中出発整備された階段道等を表示に助けられながら登り進み、稜線でロープウェイ道と合流してすぐに尾根道に入り、シダ等分けながら進み、コンクリの本道に再度合流して西へ進むと神社・大岩巡りして弥山山頂10:45。二等三角点、大岩群の山頂で展望台あり、雨止んだが曇りで視界今一つ。先へ史跡巡りするも岩が滑り、止むなく、来た道戻る。ケーブル分岐より来た紅葉谷を下り、海外の方含め数組の登山・観光客に挨拶し戻る。年末で大勢の観光客が並んでいるため、厳島神社はパスし土産物等の賑いを見つつ、JRフェリーで戻る。

○(ツガ尾の頭)山頂17:05、(河内蓮華山)同17:30 16:00~23:10(7:10)夫婦岩橋口より往復。蓮華山に登る予定が偵察で東側へ進み、沢筋道・谷から急坂の旧道らしきを登ると稜線道に出た16:30ため、高い方(北東)へ稜線進み(ツガ尾の頭)三角点あり、縦走路とあり、先に蓮華山の案内あり、稜線進むと(河内蓮華山)山頂。目指す山より標高が低い。西側を見るとそれらしい山あり、ここで間違いを確認。止む無く来た稜線道戻り、ツガ尾の頭17:55。ここから、来た時の5倍の時間かけて何とか無事橋口Pに戻る。ライト付けテープ辿り、下ると違った道。彷徨い、最初の稜線出会いNOより標高より下っても先不明。止む無く戻り登り返して再びツガ尾20:55。街明かり、方向(南)を確認しつつゆっくり下り、見覚えのある進入止めの枯れ木。ここでも彷徨い、方向を南へと急坂道らしき辿り下る。もはや暗いため、目先しか見えず、とりあえず谷へ下り沢出会い22:40。道らしきなく、沢を南へと右往左往しながら下り、ライトに光るものが見え、左岸に護岸ブロックを見つけ、その上に出るとすぐ橋の駐車地。反射で光った愛車に会えて安堵した。
◎大反省:里山を侮らない、来た道を振り返り確認しながら進む。夜間歩行は回避する。絶えず方向を確認して進む。体力は余力を保つ。早めに諦める勇気が大事。

○12/31 山口東3山(3山)曇りのち晴れ

○「蓮華山」6:35~9:20(2:45)比叡神社奥の林道口より往復。昨日のリベンジ。林道進み、十字路を直進し進むと滝と像あり、拝む。手前の右側より、つづら折れの道登り進む。尾根経て別道と合流し展望ルートと合流し稜線進むと蓮華山山頂8:00。二等三角点、平坦な広い山頂で、南側に山々・街の展望あり。稜線を西に下り、登り返して進むと(西峰)展望台山頂。北側・南側に街並み・山々の展望が良い広場。風あるも陽光の明るさあり。来た道を蓮華山頂経て下り、分岐の展望道急坂を展望楽しみつつ、慎重に下って戻る。

○「銭壺山」10:25~40(0:15)山頂まで車で行き、散策。銭壺山は、二等三角点あり、電波塔・公園のある山頂。瀬戸内の島々、山々の眺め良い。風が冷たい。

○(大將軍山)11:00~10(0:10)近くの山で山頂まで車で行き散策。霧峯神社参拝し戻る。

○[文殊山]山頂12:45「嘉納山」同13:35 12:35~14:20(1:45)林舗道ピークよりそれぞれ往復。東へ作業道進むとすぐ文殊山山頂。展望台、三角点あり。瀬戸内の海岸線・島々・山々の眺めよい。家族連れあり、強風ですぐ戻り、西へ。植林地等の境界尾根道をアップダウンしながら進み、二等三角点経て嘉納山山頂。稜線上のピークで砲台跡のコンクリ塊あり。北と南側に瀬戸内。山々の眺め良い。好天で心地よい。来た道を日差しを楽しみながら戻る。

◎これで令和に代わった今年の納山。関西に久しぶりに戻り、今年は、山入り累計100日、登った山は、325山と大いに歩くことができて大満足。山歩きの皆様に感謝。

○12/27(金)～1/5(月)年末年始 休暇取り10連休、10日連続の山歩き 広島・山口・福岡の山々合計 44 山 その顛末を簡易に4回に分けて記載します。 その 1

○12/27 広島東1山。「多飯ヶ辻山」13:25～15:05(1:40)ゲート先の林道登山口より往復。曇りのち晴れ 整備された道を神社・石仏等確認しながら植林地・境界標・東屋経て多飯ヶ辻山頂 13:15。三角点あり、樹林まばらな丘の山頂。小雪で積雪2cm。来た道淡々と戻る。移動して二子山を探し回るも準備不足露呈(1:10 徒労歩き)。

○12/28 広島西2山、山口東1山 晴れ

○「羅漢山」6:50～7:40(0:50)生山峠より往復。電波塔道進み、終点手前より左の階段道辿る。積雪あり、ゆっくり階段道進み、雨量計測施設の稜線。そのまま稜線を西に進むと羅漢山山頂。二等三角点、展望台ある平坦な山頂。積雪 3 cm、雪の山々、雲海、日の出を楽しみ戻る。

○「鬼ヶ城山」8:25～12:15(3:50)河内神社より往復。登山口不明で、止む無く、祠の裏の尾根に取り付き、尾根を西にアップダウンし進む。本道出会うも、倒木で進めないと勘違いしまた稜線に出て稜線歩きし、再び下り本道に出て別ルート(2つ)と合流し、湿った雪が被る笹道の稜線をズボンを濡らしながらアップダウンし進むと鬼ヶ城山山頂 10:40。三角点あり、樹林の中の稜線のピーク。積雪 10 cm、笹雪払い等で疲れ、ゆっくり食事。下りは、テープの立派な道を進むが来た方向と違い引き返す。来た稜線を下り、3差路分岐から平坦な道歩き(倒木通行止めは間違いに気づく)。旧林道経て別道と合流。何とそちらが本道の案内あり、最初の道の選択を悔やみつつ戻る。

○「吉和冠山」12:45～16:40(3:55)松の木峠より往復。整備されたなだらかな登山道を進み、植林地の急坂で下山者に雪の状況を教えてもらい、行けると踏み、急坂雪道進む。平坦と坂を繰り返し進み、寂地山分岐を右に入り、下り、小沢を渡り、登り返し、急坂経て吉和冠山山頂 14:50 積雪 10 cm。一等三角点、晴れ、静かな樹林の中の稜線のピーク。東側山々・集落の眺め良い。来た道を雪と夕日を楽しみつつ戻る。

○12/29 山口東1山(1山)、広島西1山(3山)曇り一時晴れ

○「二代木山」山頂 8:25(障子ヶ岳)同 10:00 7:20～11:45(4:25)R2 登山口より往復。民家の庭先経て急坂、岩々進み、1P。アップダウンしながら稜線を登り進み、三角点経て二代木山山頂。樹林の中の稜線のピークで昨日の羅漢等山々の眺めあり、山頂の札も5つあり。朝日・風が心地よい。稜線を端まで戻り、北の稜線を見つめる。地図では、北にある標高がここより低い山が二代木山頂であり、確認に稜線から北への尾根を少し下るとテープあり、辿りながら稜線尾根を感いつつ、小藪を分けて、支尾根を彷徨い、体力を消耗しつつ進む。諦めかけて回りより高い1Pへ登って、北の先を見ると今までにない道とテープあり、その緩やかな稜線を辿ると探していた地図上の二代木山。その樹林の中のピークには、三角点があり、山の標識(障子ヶ岳)とあり、山名が連山のピークと交代した模様。来た稜線を確認しながら戻る。

○「三倉岳」12:55～16:30(3:35)キャンプ場駐車場より周回。ピークが幾つかあり、本命の三角点を目指す。Bコースより、Aコースへ連絡通路進み4合目避難小屋。あとは、整備された石段道等を合目表示に助けられながら進み。9合目コル。西へと新道の急坂進むと三倉山三角点山頂。二等三角点、樹林の中の丘のピーク。山々の眺めあり、旧道を下りコル。東の急坂を登ると夕陽岳山頂。大きな岩と松のある山頂(連峰の最高点)で、展望良い。崩壊で縦走できないため、コルに下り、連絡道経てBコース5合目。同じく整備された石段等の道を合目表示目安に登り、9合目コル。東へ急坂進むと大岩のある朝日岳山頂。山々の眺め良い。コルに戻り、連山のメインの山へ。坂を進み、大きな岩山。鎖と足踏み鉄棒のある、大きな岩々の直登道を鎖・木の根等頼

りに一気に登り、さらに大岩の急坂を同様によじ登ると巨大な丸みを帯びた岩の塊。鉄杭・鎖に導かれて上へ登ると巨大岩の天辺の中岳山頂。足がすくむが、山々・集落の眺め良い。来た厳しい急坂岩道を慎重にコルに戻り、あとは、石段道のBコースを淡々と下り、小雨がぱらつきだす中、戻る。

○12/21(土)22(日)高知西3山、同中央1山(1山)

○12/21「鈴ヶ森」10:20~13:05(2:45)前回のリベンジ。曇り 鈴ヶ森林道支線ゲート口より往復。表示は何もなく、取り合えず、山腹の林道を進む。崩壊地等経て進むと林道終点 10:55 で何も目印なく引き返す。北の山側に取り付ける尾根を探しながら戻る途中、ゲートに駐車した車が見える尾根末端にテープを確認。そのテープを辿り伐採道を登る 11:40。テープが尽きた伐採終点より尾根に入り、ケモノ道らしきを辿り登るとテープに出会い、そのまま稜線を進むと、何と先人のいる鈴ヶ森山頂 12:10。その方は、春分峠から3時間かけて来たとのことで、挨拶し山話しながら昼食。二等三角点のある、稜線ピークの樹林の中の山頂で、山々の眺め、陽光あり。下山開始 12:30。来た道を確認しつつ、あつという間に戻る。

○「蟠蛇(バンダ)ヶ森」15:30~17:05(1:35)林道途中の鉄塔口駐車場より往復。急坂登り上の林道に出て、すぐ道らしきを山に入り、植林地を上へ、西へと迷いつつ進み、上の林道に出て進むと下山道案内経て、公園入口分岐。左へその道を進むと蟠蛇ヶ森山頂 16:20。奥に一等三角点ある公園広場の山頂で、展望台あり、須崎湾の眺めと山々の眺め楽しむ。来た道戻り、下山道表示の道を経て林道。登ってきたところのテープある入り口より下り、鉄塔の駐車場に明るいうちに帰れた(登山口に登り90分とあり急ぎ足で往復)。

○「虚空蔵山」18:15~18:30(0:15)蟠蛇ヶ森の近くで偵察と思い林道を車で進むと山頂近くの鎖ゲートまで車で入れて、ライト付けて往復。ゲートより、舗道を進み電波塔。その左の山側を進むとすぐ虚空蔵山山頂。電波塔脇の樹林の中の山頂で三角点あり、街明かり楽しみつつ戻る

○12/22 曇り「鷲尾山」山頂 6:50(烏帽子山)同 7:30 6:25~8:05(1:40)鷲尾トンネル北口の吉野より往復。天気崩れるため、早めにライト付けて出発。沢の岩道登り、植林地進むと稜線。左へ急坂の階段道進むと鷲尾山山頂。平坦な史跡のある広場の山頂で高知港・街明かり、三日月の眺め楽しむ。来た稜線戻り、分岐経て西へ1P経て進むと烏帽子山山頂。三角点あり、神社のある山頂で参拝し、街と海の眺めを楽しみ、トレランの2人、登山者に挨拶しながら来た道戻る。その後天気予報どおり、雨となり、今回はここまで。

○12/14(土)15(日)高知西1山、新日本山岳誌以外2山と過去の追加 9/22(日)香川東1山、これで香川県を踏破。

○12/14「不入山(イラズヤマ)」8:50~13:55(5:05)舗道から林道に入るルートを往復。林道に入るとすぐゲート。林道歩きで淡々と奥に入ってゆく。他の林道の交差手前に巨木百選のモミの木案内あり 9:25、そのモミの巨木を経て笹のトンネルの尾根の稜線を進む。獣道らしいが、いつか本道に出会うと見て、苦労しかき分けながら進み 1P。木に登り、目指す山と方向を確認し鞍部へ下るが、獣道はかなり手前へ下るため、真藪を西の前方にトラバースしつつ、かき分けながら鞍部へ下る。もう諦めようかと思う程になりつつ、背丈以上の真笹の薄いところを探しつつ下る。鞍部近くになりピンクテープ見かけ本道に合流 11:10。後は、トラバ道をアップダウンしつつ進み、四万十川源流口からと山頂への三差路出てトラバ道経て尾根稜線。笹の一部刈り払いされた坂道を進み急坂経て登ると不入山山頂 12:05。一等三角点のある丘の山頂で、ベンチ・祠あり。晴れて暖かく、風もあり、心地よい。山々の眺めが良い。藪漕ぎの疲れで昼食をゆっくり取り、来た道下山。三差路分岐をトラバ道・藪漕ぎして出た鞍部経て下ってゆき、船戸川林道終点。後は、

林道を淡々と進み、巨木入口経て、林道をショートカットして戻る。次に移動し北側の林道から「鈴ヶ森」を目指したが、目印なく、林道を奥へ進んだが間違いルートで、1P(17:00)でも標高低く、日没で焦り、下る方向間違え、再び1P戻り。下りのルートを探し回り、やっと見つけ、稜線進みもう1度迷いつつ何とか来た林道に出て 18:55 無事戻る(15:05~20:15)。

○12/15 新日本山岳誌以外の山 六甲南(七兵衛山)山頂 13:10(打越山)同 13:30 例会で阪急芦屋駅より岡本駅へ周回で歩く 10:10~15:30(5:20)。

○9/22(日)「五剣山」6:35~7:25(0:50)八栗寺手前口より往復。昨夜道への飛び降り、痛めた右足を引きずるようにゆっくり1Pを往復。登山禁止の案内板はあったが、通行止めではないため、台風の影響で強風の中、急坂岩々の道を足の痛みを堪えて、祠のある1P。街の眺めあり。この先は、岩だけの巻き道のない岩峰で、何もついていないため強風で滑落の危険大。先へ進めず断念し、痛む足を引きずりつつも戻る。あとで、旧の香川県の山の本では歩けるコースがあるが、新の香川県の山の本では、登山禁止となっており、旧の本の情報だけで少し歩いてしまった。この山はこの歩きで終了。これで香川県の山を踏破。

○12/8(日)高知北4山 晴れ

○「横倉山」6:05~7:45(1:40)第3駐車場より往復。薄暗い中、ライトつけて出発。整備された登山道進み分岐を下に進み、下り続きのため、上の尾根道へ移動。進むと神社。ここも間違えて左の鳥居より上へ登りあとは階段の下りのみのため神社に引き返す。明るくなり、西へと横倉宮目指す。途中、神社、旧史跡等経て進み、横倉宮(最高点)。参拝し稜線を東にアップダウンしながら進み、分岐経て登り平坦地となり進むと横倉山山頂。三角点あり、稜線のピークで樹林の中、朝日・山々の眺めあり。来た道戻り、分岐よりトラバース道を進み神社に出て、来た道に戻る。朝の静寂な森と木洩れ日楽しみつつ戻る。

○「黒森山」9:00~10:15(1:15)林舗道終点先の林道の空きスペースに駐車し往復。林道進み、すぐ植林地の斜面を斜め上へ登り進むと上の林道。2度繰り返し、林道進むと景観よくなる。3度折り返しして進むと展望地経て電波塔群の奥に黒森山山頂。三角点あり、竹林の端の平坦な山頂。来た道戻り、展望地で心地よい晴天の中、山々・海の眺めを楽しむ。あとは、林道をショートカットしながら、日が差す植林地の森を満喫しながら戻る。

○「雨ガ森」11:55~14:50(2:55)北側登山口より往復。登山口に2台車あり、作業道進み、途中より、直登するテープを辿って高度を上げながら進む。作業道に案内表示あり、倒木等避けながら進むと例の車の8人パーティが下りて来て挨拶。道の概要を教えてもらう。テープ辿り直登すると、トラバ道。右へ行くが、作業道の進んだ先のため、戻り左へ笹分け進むと、尾根への道案内。背丈以上の笹の中、尾根を登ると笹は小笹となり歩き易くなる。アップダウンしながら進むと視界が開けるようになり、さらに進むと雨ガ森山頂 13:30。三角点あり、稜線ピークの平坦な山頂。360度の大大パノラマの中、晴天で風もない穏やかな山日和を堪能。来た道を淡々と下り、ショートカットしつつ、一気に登山口に戻る。

○「笹ヶ峰」16:40~17:30(0:50)林道分岐の登山口表示より往復。移動に時間を要し偵察で車を進めるとかなり上まで進めたので、山歩きにトライ。林道進むとすぐに登山口。進むと上の林道、同じこと2度繰り返し植林地進むと大・小天狗岩分岐。山頂に近い小天狗ルートへピンクテープ辿り、左上に斜面を登り進み、岩分岐経て急坂登ると稜線。別ルートと合流し北へと進み、岩稜帯経て笹ヶ峰山頂。大岩・祠あり、稜線ピークの山頂。西側に集落と山々の眺めあり、月が綺麗だが、風が強い。夕焼け雲あり、急ぎ来た道を下る。植林地の分岐経て、薄暗い中、登山道を一気に下り登山口。あとは、林道を月明りに助けられながら薄暮に駐車地に戻る。

○11/30(土)12/1(日)徳島南3山、高知東2山

○11/30「鰻轟山」10:25～12:10(1:45)R193 霧越峠手前の登山口より往復。整備された道を進むと斜面を切り開いたトラバースの登山道。ザレバ等に注意して進む。稜線に出て、急坂経て鰻轟山山頂 11:15。稜線の樹林の中の平坦な山頂。境界標石、朝日と山々の眺めあり。来た道の稜線下ると2人の登山者に会い挨拶。ザレバ道を気にしていた。トラバ道は、ザレバ注意し淡々と進み戻る。好天で心地よい山歩き。

○「胴切山」14:40～16:25(1:45)晴れR36と林道交差する峠より少し林道(谷山・霧越線)入り途中より往復。林道進み、尾根へとピンクテープ頼りに登り1P。西の稜線目指すが途中より稜線を外れていることに気が付き、トラバースして稜線。進むと下り、元の林道に出る。林道進むと先に山が見えて、再び稜線に入る。テープ等頼りに急坂経て1P。下り切通し経て左に進むと地蔵あり拝む。その道を進み2つ目の切通し経て、急坂登り進むと胴切山山頂 15:35。一等三角点、樹林の中の丘の山頂で山々の眺めあり、静寂の中、陽光、小鳥のさえずり楽しむ。来た道を確認しながら急坂・切通し・地蔵等経て林道に出て戻る。

○「明神ヶ岳」19:15～19:30(0:15)山頂下駐車場よりライト点けて往復。車で神社鳥居の駐車場まで行き、階段道経て一等三角点と夜空の三日月を確認し先へ進むと最高点の峯神社。参拝し、街の夜景の眺めを楽しむ。風あり、すぐ戻る。

○12/1「御在所山」7:20～10:15(2:55)大座敷登山口より往復。休みの茶屋を見つつ、林舗道の急坂進み終点が登山口。植林地の整備された道を辿り、石を入れた鉄筋土留めを経て上の林舗道に出て横切り鳥居口。地元の方が作業で集まったところ。神社の石段を登り、植林地経てさらに石段。途中の神社に参拝し朝日を楽しむ。さらに進むと急な石段(尻見坂)となり、登り進むと神社で参拝。その右奥が御在所山山頂 8:50。三角点あり、樹林の丘の山頂。北側に山々の眺望あり。来た道に戻る。急坂の石段で、神社作業の登りの方々に挨拶。さらに下る途中の見晴らしがよさそうなところで作業中の地元の方に挨拶し鳥居口に戻る。あとは来た植林地道下り、途中2組の登山者に挨拶して戻る。

○「国見山」12:40～15:10(2:30)R297 赤荒峠より往復。登山口表示より稜線進む。三角点経て下りアップダウンしながら参勤交代道へ進む。道が交差する作業道を東へ進み途中より左に入り、バイクの跡を怒りながら辿り進み、作業道に出るとすぐ国見山山頂 13:50。三角点と朽ちた展望台、近くに簡易電波塔のある丘の山頂。曇りで視界今一つ。来た道を確認しながら、三角点まで戻り、そこからテープに騙され左のテープ道へ入り進むと見知らぬ林道に出る。方向不明で下る方向(西)に進むと間もなく、林道ゲートに出てR297を北へ進み登山口の赤荒峠に戻る。

○11/22(金)休み 23(土)24(日)愛媛南5山(4山)高知西2山その2 遂に愛媛県を踏破。

○11/23 晴れ「譲ヶ葉森」6:55～9:00(2:05)林舗道先の砂利林道の空きスペースに駐車し往復。旧道らしきを辿り植林地の作業道へ出て上へ上へと進む。山への案内表示出て、少し安堵し、それらしき道を辿り上へ。伐採等の作業道で分かりにくい、テープ等目安に登り進み、尾根にとりつく。植林地、広葉樹混交の尾根を進み、カヤ、草などを分けて登ると譲ヶ葉森山頂 7:50。植林地の中の丘のピークで、東側に次に目指したい大黒山等の稜線が見え、青空・朝日を楽しむ。先に稜線を進めるか探るが、はるか遠くで道不明のため、諦めてそのまま、来た道戻る。山表示を確認したところより、本道らしきを下ってしまい、林舗道分岐に出て、林道を奥へ登り返して駐車地に戻る。

○「大黒山」10:20～14:40(4:20)目指す峠のはるか手前で伐採作業のため、林舗道が通行止め。止む無く、車を作業車の通れるよう空きスペースに止めて林道経て往復。林舗道進みすぐ、

尾根の道らしきに取り付き上へ上へと登ると上の林舗道。何度か繰り返して上の林舗道進み、途中にピンクテープあり、そこから作業道(旧)を辿り進む。大きな崩壊なく、崩れたところ、落石、倒木等回避しながら淡々と進み。稜線の交差路の大峠。先の北への下りは、ピンクテープあり、東西に縦走路。東の稜線道へ。時折道を確認しながら、淡々と稜線を進む。先に山を見えて、近づくとさらに先に山が見えてを繰り返す。植林・広葉樹の稜線を境界標等頼りアップダウン繰り返し、休まずにゆっくりと進み続ける。真っ直ぐななだらかな稜線道を進むと大黒山山頂 12:35。車通行止めで諦めかけたが、無事登れて大満足。お腹が空き、ゆっくり食事し休憩。三角点あり、樹林の中の平坦な山頂。樹間より山々の眺めあり。高知側の案内表示に尾根・沢の2ルートあり。晴れて心地よいひと時。来た稜線道は大峠・旧作業道、林舗道等経て下り、駐車地林道に出会いながら、さらに下ってしまい彷徨い、作業車の音の方へ登り返すと見覚えのある材木積載のトラック。作業車は上へ戻って行く。その後を追って無事駐車地に戻る。

○「観音岳」16:15~17:05(0:50) 広い駐車場口より往復。風力発電のある尾根へとトラロープある茨の急坂に取り付き、林道。さらに茨分け登り、上の林道。そこからさらに茨・倒木等越えて、作業舗道を横切り、コンクリ階段道を上へ登り、茨分け進み、1Pの稜線。ここから西へと稜線進み、右に風力発電の巨大な風車を見ながら稜線を奥へと進み観音岳山頂 16:40。二等三角点あり、樹林の中の平坦な山頂。晴れても、樹間からの少しの展望と青空のみ。風力発電の音が聞こえる。来た道を確認しながら、駐車地の広い駐車場に戻る。そこから太平洋・山々の夕景色を楽しむ。これで、四国の一角の愛媛県を踏破し、大満足の日となった。

○11/24 曇りのち雨 午後から天気崩れるため、行けるところまでと山歩き

○「今ノ山」6:10~8:15(2:05) 晴れ 大阪航空局ゲート下の溪流遊歩道登山口より往復。駐車スペースなく案内表示より下ったスペースに車止めてすぐ沢に下ると案内なく、行ったり来たりしつつ上流へ。程なく、案内表示の登山口につき、沢沿いの遊歩道を右岸に沿って登ってゆく。崩壊地も一部あるが、難なく通過し、緩やかな沢沿いの道を進み、管理舗道橋の下を抜けて登山道表示に会う。さらに上流へと進み、二股分岐となり左へ沢沿いにテープ等表示を辿り進む。ザレ場となり、尾根へと方向転換し進み、尾根稜線。そこから広葉樹の立派な森のつづら折れの道を上へとゆっくり登り進む。なだらかとなり、稜線。進むと右にテープあり、その奥が今ノ山山頂 7:15。一等三角点あり、樹林の中の平坦な山頂ですぐ脇に航空局の施設あり。先へとテープ等辿り進み、舗道に出て登ると広い平坦な最高点で、先程の山頂と航空局の建物の眺めが良い。周りに電波塔あり。来た道戻る途中北に山々の眺め、南に山々・海岸線の眺めを朝日の中、大いに楽しむ。来た道を確認しながら、樹林帯をショートカットし、尾根をそのまま進み、急坂を慎重に下り、沢の二股に戻り、溪流を楽しみつつ戻る。

○「鶴松ヶ森」11:45~12:30(0:45) 風の里公園NO20の風力発電口より往復。移動に大夫時間を要して天候は曇りの中、整備された遊歩道を進み、途中の展望台経て、緩やかな稜線進むと鶴松ヶ森山頂。三角点ある平坦な山頂で、南側に山々、海の展望あり。来た道を小さなもみじの赤い紅葉を楽しみつつ下り、途中の展望台より風力発電20基と海・山の眺め楽しむ。雨が降り出し、本降りになる中登山口に戻る。大遠征(往復1100km走行)で今回はここまで。

○11/17(日) 鳥取西1山、鳥根東2山(道のない2山) 晴れ時々曇り(11/16(土)は例会山行)

○「船上山」8:00~9:55(1:55) 東坂登山口より周回。登山口より整備された粘土質の滑り易い道を登り、樹林帯経て稜線となり船上山山頂。三角点あり、笹の刈り払いされた樹林の中の山頂。稜線を記念碑・神社・奥宮まで行き参拝し、記念碑のある休憩所まで戻る。南に進み、上級者向きの急坂の道を滑らないよう慎重に一気に下り、トラバース道に出る。東へアップダウンしな

がら、左上の絶壁の屏風岩・紅葉を眺め、右側にダム等の景観を見て散策気分。淡々と進み、登ってきた本道に合流して戻る。登山口近くで大勢の登山者に挨拶。駐車場も一杯で人気の山。

○「鷹入山」(道のない山)12:20~14:10(1:50)鷹入の滝駐車場より往復。いくつかの滝を眺めながら遊歩道を進み、鷹入の滝。先に道なく少し戻り右側より取り付き上へ。滝の上部に出て、植林地の3つの支尾根あり、躊躇しながら、真ん中の尾根を進む。急坂・笹等の小藪分けて上へ上へと登り進む。テープ1つあり、支尾根合流点で境界標あり。あとは、急坂を淡々と小藪かき分け登り、稜線の境界標経てすぐドンピシャの鷹入山山頂 13:10。三角点あり、小笹・樹林の中の丘の立派な山名柱のある山頂。山々の眺めあり、稜線を西へテープ・境界標辿り散策。登山道はやはり不明。来た尾根辿り最初の境界標に戻り、あとは右側を沢の音を聞きながら下ったが、どこかで間違え2度トラバースして来た尾根に戻って、滝の上。旧作業道あり、そちらを進み途中からなだらかな斜面を沢へ下り、小沢・旧トイレ経て本道(遊歩道)に出て戻る。

○「奥山」(道のない山)14:55~16:45(1:50)縄久利峠トンネル東口の林道ゲート口より往復。移動等で遅い出発のため、偵察の気分で歩く。林道進み尾根へ辿る登り口を探し奥まで進み、小沢口手前の急坂より山入り。急坂登り、獣道のトラバース道を林道沿い進む。途中より急坂を笹かき分け登り支尾根稜線。簡易な木の目印置き、左(南)へ笹等小藪分け・境界標確認しながら進む。急経て1P 15:25。境界標・支尾根合流点を確認。先の目指す稜線も見えて行けると確信し方向確認しながら、稜線を下り進む。歩き易い獣道の鞍部より登り返し、急坂・小藪分け進むと、本稜線で境界標等目印あり。西へと稜線をアップダウンし進むと奥山山頂 15:50。三角点あり、樹林・小笹の小藪の丘の山頂。晴れ・陽光・山々の眺めあり、小鳥のさえずりのみで静か。来たルートを確認しながら。本稜線より支稜線。下って登り返し小藪分け進み 1P。ここから北へ稜線下る。どこかで尾根を間違え、来た稜線にトラバースし戻り、登りの目印確認できず、途中より東の林道側へ下る。笹等小藪分けて下り進むと林道に出て安堵。登りの途中に見て登ろうかと思案したところで、位置を確認でき、あとは林道をルンルン気分に戻る。

○11/9(土)10(日)岡山北4山

○11/9「黒髪山」16:10~18:00(1:50)晴れ 例会下見後で遅い出発。舗道大水崩壊通行止め地点より往復。舗道を崩壊を確認しながらショートカットしつつ淡々と登り進み、寺下集落。青龍寺参道を進み、荒れた階段等経て青龍寺。参拝し奥の北側斜面を登り進むと黒髪山山頂 17:05 二等三角点、樹林の中の丘の山頂で山々の眺めあり。夕焼け・風あり。急ぎ下り、参道口より舗道をショートカットしつつ、暗くなる中、月明かり等に助けられながら戻る。

○11/10「耳スエ山」6:50~8:10(1:20)耳スエ林道口より往復。以前下見で登山口不明で引き返し。車で登山口探しながら赤テープ登山口を確認。尾根経て伐採地道横切りピンクテープ頼りに登り進む。再度伐採道経て、急坂の直登道をテープ、笹の刈り払いに助けられながら登り進み、耳スエ山山頂 7:25。曇り、三角点あり、灌木、刈り払いされた笹の丘の山頂。山々の眺め、風あり、青空覗く。来た急坂道を慎重に下り、伐採道等確認しながら戻る。

○「剣森山」10:00~14:00(4:00)晴れ R180 バス停則本近くの集落登山口より往復。登山口表示進むが道不明。山頂遠望できたので、そちらの方向へと考える。取水の沢を進むが道なくやむなく山頂と反対方向の尾根へと登り進む。稜線に出て北東方向へ稜線をアップダウンし進む。1Pを下ると林道出会い。東へ進むが、途中のテープはスルーし先へ進むと表示なく、止む無く支尾根の急坂登り、稜線へ出る。テープ等あり西へ高い方へ戻り、目安の721mピーク。北へ下り登り返して進んでゆく。茨の狭いトンネル道を進むと旧林道。上へと進み、林道直進しカーブで、急坂に取り付き、植林地の茨等分けて登ると大きな八方広がりの大きな犬ブナの木。奥へ進むと

本道のテープ道となり進み、笹を分けて進むと剣森山山頂 12:05。ヒノキ、灌木・笹が刈り払いされた平坦な山頂。山々の眺めあり、静か。来た道戻り途中は本道のテープを辿り、広葉樹の森をトラバースして、旧林道に出て、オレンジテープのある茨トンネル経て下る。721mピーク手前より立派な道ありそちらを下り進んで行くと、林道に出て登山道の小さな表示あり。どちらに進むか行ったり来たりしながら彷徨う。低い方向へと下り進むと林道本道に出会い、登る時に確認したオレンジテープあり。来た道辿り稜線 1Pよりテープ頼りに作業道下り進む。終点より南へ下り沢に出る。水源パイプありその沢脇の道を辿り下るとお寺。一つ谷が違うみたいで、西の急坂の竹林を慎重に下り、民家の人に挨拶し了解得て通行させてもらい、登り口に何とか戻る。道不明でかなり疲れた山歩き。

○「櫃ヶ山」15:45~17:05(1:20)R55 から入った「天狗の森」林道分岐より往復。山の西側が山頂に近いためトライ。左が通常の林道であるが、伐採道の急坂を直進して急ぎ上へ上へと登って行き重機ある作業道終点。方向を定めて東へ支尾根に出て、笹等分けながら、本尾根に出て東へと笹を分けて登り進むと登り口の左分岐より続く広い林道。奥に進むと広場となり、天狗の森の案内。原生林のブナ、ミズナラ等の森で、旧小屋経て登り進むと東側からの本道8合目の尾根で合流。急坂登り、9合目広場。さらに階段急坂道登ると櫃ヶ山山頂 16:30。三角点あり、草原・丘の山頂で、山々・街の眺め良い。曇り、そよ風あり。来た道を急坂道を慎重に急ぎながら下り8合目。原生林の森を楽しみ下り、広い林道に出て、来た尾根へ。笹を分けて一気に下り、作業道終点。あとは、作業道下って、明るいうちに戻る。

○11/1(金)休み~11/4(月)徳島西2山、高知北8山(3山)「伝説のハイカー編」
ダブルその2

○11/3 高知北2山(2山)「伝説のハイカー編」2「カガマシ山」山頂 10:30(椽尾山)同 11:50(笹ヶ峰)同 14:10「三傍示山」同 15:05 仁尾ヶ内林道ゲートより大周回。8:40~24:40(16:00)R5愛媛側に高速で行き山入りを狙ったが、昨夏の大雨での崩壊が広範囲で通行止め続く。高速で引き返し昨日教えて頂いたR5立川分岐より林道進み、カガマシ山の表示の道へ右へ曲がり、林舗道、砂利道道み、遅い出発。林道を上へ上へと2分岐経て進み、左(西)へトラバースみたいに林道を進むと林道終点。何も表示がない。止む無く、植林地の急坂を上へ上へと登り進むと1本のブナ、その先に境界標。その境界標を辿り、尾根稜線を登り進む。笹・シダの草地となり、分けて進むとカガマシ山山頂。三角点あり、笹・シダの草地の平坦な山頂で山々の眺めあり。曇り空であるが先へと進む。笹等分けながら稜線道をアップダウンしながら進む。途中、北側のブナ林を楽しむ。テープ等頼りに稜線進み(椽尾山)山頂。三角点あり、ブナ・笹の樹林の中の平坦な山頂。先へと進むが再び同山に戻る。方向を確認し北へと背丈のある笹藪の獣道を幾つか探し回り時間ロス。止む無く西端の獣笹路を潜り、急坂下り、稜線に出るとピンクテープを確認。稜線の左(西)側の急坂を笹を掴みつつ、慎重に下る。途中、崖のような急坂も、テープ等頼りに慎重に下ってゆく。そろそろ次の山かと笹の1Pの丘を探し回るが何も無く先へと稜線進む。三角点経て稜線進むと(笹ヶ峰)山頂。ブナ林の丘の山頂で山々の眺めあり。曇り。時間的に引き返すのは無理と判断して、少し下ると目指す三傍示山登山口。稜線を急ぎ進む。アップダウンしながら急坂・緩やかな稜線の繰り返しを進み、枯れ笹の道の急坂登り進むと三傍示山山頂。灌木、枯れ笹の丘の山頂で曇りで視界今一つ。来た道戻るが、すぐの分岐で道の確かな方へ直進して一気に下り、知らない林道。さらに下り進むと徳島県の表示あり、道の誤りに遅まきながら気付く。降りた急坂を喘ぎながら戻り、山頂近くの方へ分岐。南でなく、西への分岐へ来た尾根道辿り下る(約1Hの時間・体力ロス)。来た道の青いテープ等確認しながら下るも、霧が湧き、夕暮れで薄暗く

なりやや焦る。淡々と稜線を進み三傍示山登山口に戻る。薄暗くここからはライト付け、ゆっくり、確認しながら笹ヶ峰の登山口へと南に下ってゆく。荒れたガレ場等経て、慎重にゆっくり確認しながら下り、R5の登山口 18:00。疲れて腰を下ろし一休み。このR5は、大雨崩壊いで昨夏より通行止めで、車の通りなく、崩壊状況を確認するような気持ちで大豊町の方面へ下ってゆく。舗装路は普通の道と変わらず、時折、落ち葉・小石がある道を下ってゆくと大崩壊地1つ目。舗道なく。側溝を辿り先へ進む。しばらくして、今度は大水による大木。大量の土砂の流出した沢を慎重に通過。今は沢の水量少ないが、大きな流木と大量の土砂流出を見ると大水の凄まじさにたじろぐ。先へとR5 舗道下り進むと道が完全に消失した地点に出る 19:30。ここで先の下りの舗道を探し回るが、糸口もなく、小雨が降ってきて一休み。どうするか思案するうちに割り切って、川の流れの下の方へ、方向は南へと定めてゆっくり下る。すると途中で白いガードレールが見えて安堵。ゆっくりその袂に近づき、舗道に出て大安堵(小1Hの時間・体力消耗)20:30。あとは、R5を立川分岐まで下るが、車だとすぐだが、歩くと通行止めまでも時間を要し、さらに立川分岐まで時間を要した21:15。林舗道を上り進み途中舗道に腰を下ろし休憩しつつ、何とか、カガマシ山分岐の仁尾ヶ内停留所 22:35。集落を抜けつつ、犬に吠えられながら登り進み林舗道終点。砂利道を進が、荒れて車が進めない道となり一旦舗道終点よりも下に戻り、腰を下ろして思案。道は間違いないはずだが、疑心暗鬼が頭をもたげる。もう一度確認と林舗道終点の先へ進むと、分岐があり、朝方、車でどちらに行くか思案した場所だと思い出し、ようやく本道へ。疲れ等で時間がかかり、日を跨ぎながらも無事ゲート前の車に戻れて安堵。

○11/4 高知北2山(1山)晴れ

○「陣ヶ森」8:45~9:20(0:35)林道終点駐車場より往復。前日のリハビリ歩き。急坂・階段道をゆっくり進むと陣ヶ森山頂。二等三角点、東屋のある平坦な山頂。樹林・背の高い笹等のため視界今一つ。下り始めると天候が晴れてきた。

○「前工石山」10:55~12:05(1:10)山の東側工石神社口より往復。作業道終点に鳥居あり。石段を登ると工石神社で参拝。右端の登山道をゆっくり登り、階段道経て進むと緩やかとなり、前工石山山頂。一等三角点、平坦な、ベンチ・展望台のある山頂、幾人かの登山者あり、人気の山。展望台より、山々、街、太平洋の眺め良い。地元の作業休みの方と山話して、木洩れ日の森を楽しみながら戻る。

○(三辻山)12:15~13:40(1:25)すぐ近くのキャンプ場口より往復。林道進み、ゲートを直進して林道進むと登山口。植林地のつづら折れの道を登って三差路。山頂へと左へ登り進むと三辻山山頂。三角点ある丘の山頂。下りは、途中よりショートカット気味に下り、採石場跡に出て、秋グミ(小さいグミ)楽しみつつ、登山口に出て林道に戻る。今回はここまで。

○11/1(金)休み~11/4(月)徳島西2山、高知北8山(3山)「伝説のハイカー編」

ダブル その1

○11/1 徳島西2山、高知北1山「中津山」7:35~10:45(3:10)西祖谷側林舗道終点より往復。植林地の道を淡々と進む。広葉樹の森・植林地が交互に続き、急坂、なだらか、急坂路経て中津山山頂。一等三角点(太子像脇)、黄金の池、社のある広い平坦な山頂。南側山々の眺め良い。散策し陽光に輝くブナ等の稜線樹林を楽しみ戻る。

○「野鹿池山」12:45~13:50(1:05)林舗道終点広い駐車場より往復。鳥居を潜り、真っ直ぐ進むと旧社で参拝。少し戻り、草道をテープ目安に登ると野鹿池山頂。三角点あり、樹林の中の丘の山頂。晴れて山々の眺めと風あり。稜線ルートを辿り最高点、西峰を確認して戻る。

○「梶ヶ森」15:40~15:50(0:10)車で電波塔林立する頂上直下まで車で行きすぐ山頂。一等

三角点、晴天、陽光、山々の眺めが心地よい、丘の山頂。

○11/2「伝説のハイカー編」昨晚に、R5より登山口を目指したが、分岐の林道入り口に途中崩壊通行不可とあり、R5先の愛媛側へもゲート先まで車で進むが大崩壊で道の消失を確認(後日この確認が生きる)し急遽大回りして白髪山登山口まで、砂利林道を苦勞して6km何とか車で登り、冬の瀬登山口着。同登山口より大周回。「白髪山」山頂 7:15「奥工石山」同 11:10 5:55~13:35(7:40)薄暗い中、ライト付け出発。階段の整備された道を登る。すぐ明るくなり、沢渡渉等経て高度を上げ、ヒノキの森を進み、なだらかな道を分岐・大岩経て進むと縦走路との三叉路分岐で東の奥に進むと白髪山山頂。岩々の丘の山頂で、朝日・雲海・山々・枯れ木・岩・風が絶妙で大庭園を独り占め。縦走路へ入るも、樹海みたいに入り組み、テープ等頼りに進む。樹海抜けて進むと平坦なスペース。ブナの大木が、枯れたもの含めて原生林の雰囲気。道を探し、笹をかき分けながら進む。いくつかピーク経て、尾根三叉路。方向変わり、北西へ稜線を下る。ブナ林が、紅葉含めて気持ち良い。下り、鹿捕獲表示見て、別林道(荒れている)の白髪登山口。林道を下り、本林道で車・テント確認(後でお世話になった方の車)。左へ林道進むと三差路の竜王峠 9:20で、奥工石山登山口。尾根の急坂登り、細尾根の稜線進む。1Pの大岩を左へ急坂のトラバース道を辿り下ると緩やかな稜線で、ブナ大木・紅葉見頃。樹林を楽しみつつ稜線進み、別ルートと合流し急坂登り、岩清水でのどを潤す。稜線進むと下山者に挨拶、さらに2人連れと会う。大阪から来た方で挨拶し山話。山行をネットに載せているとのことで、記念写真。先へ進むとすぐ奥工石山山頂。笹・灌木の丘の山頂。晴天・紅葉・山々の眺め良い。先へと稜線進むが先の山には谷を経て進む模様で、帰りの登山者に挨拶しブナの森の眺め楽しみ戻る。山頂経て大岩の白山神社参拝。そこで先程の地元の方に挨拶し山話。目指す山への別ルートを教えてもらう。その方について、来た稜線道をブナ、紅葉楽しみながら、竜王峠の登山口に戻り、お礼を云って奥白髪林道へ。少し荒れた林道を小春日和を楽しみながら戻る

○「稲叢山」16:40~18:05(1:25)稲村トンネル南登山口より往復。移動に時間を要し、急ぎ足で山入り。稜線分岐に出て左へ(西)。トラバ道を経つかの簡易鉄梯子経て進み、1P。下り登り返し進むと三差路。山頂へと走るようにアップダウンしながら、夕日を追いかけ進むと稲叢山山頂 17:20。二等三角点、夕焼け、山々の眺め楽しむ。大岩の丘の山頂で風あり。来た道を急ぎ足で戻り、分岐よりライト付けて戻る。

○10/27(日)28(月)休み 高知北4山(2山)これで3100山を踏破。

○10/27 晴れ 伝説のハイカー編

○「寒風山」5:05~8:00(2:55)旧寒風山トンネル南登山口より往復。昨日車点検で移動のため、暗いうちよりライト付け出発。急坂経て、整備された道をゆっくりと高度を上げて行く。トラバ道で明るくなり間もなく桑瀬峠の稜線。東へ稜線辿り、目の前に大きな山塊現れ、麓より急坂・アルミ梯子道を慎重に登り、稜線アップダウンしながら進み寒風山山頂 6:40。石・笹の平坦な山頂。曇り・風あり。笹ヶ峰には行かず来た道戻る。桑瀬峠まで4名に挨拶し、下りも数人に挨拶。登山口近くで幾組かの登山者に会い戻る。車で食事等身支度していると大勢の登山者が登山口に吸い込まれていく。笹ヶ峰等かなり人気の山。車で笹ヶ峰・大座礼林道を舗装・砂利道進み次の登山口探すも荒れた道となり引き返してきた地元の方の車の後について戻り、次の山の登山口。

○「伝説のハイカー編」(冠山)山頂 11:25「平家平」同 12:25(ちち山)同 15:00 林道一の谷橋登山口より往復。地元の方に感謝し、その出発後跡を追うように進む。橋の下を経て沢沿いの荒れた道を登り、渡渉して進むが、テープ等見えず止む無く、樹林帯に入り上へ。旧本道に出て進

むと本来の本道と合流。沢から樹林帯となり、ブナ等の大木の樹林を眺めながら進む。笹原に出て展望よくなり進むと稜線分岐。右へと稜線下り、登り返すと笹が道を覆い下の石等確認しながら、ゆっくりしか進めない。急坂登り冠山山頂。灌木・笹の稜線上のピーク。陽光が心地よく、山々の眺めよい。先へと稜線を笹をかき分けつつ慎重に下り、あとは、笹路をアップダウン繰り返しながらかき分け進む。平坦となり笹も小ぶりでかなり踏まれている平家平山頂。登山者3名に挨拶。三角点あり、笹原丘陵の山頂で、山々の眺め、陽光・風が心地よい。食事した道戻る。途中の岩場で休む方に挨拶、山話し明日の山の登山口情報を教えてもらう。稜線笹かき分け進むと2名に挨拶。冠山経て下りさらに2名に挨拶。どうやら大藪登山口(整備された道。登山道:本来そちらから登るはずが..)から笹ヶ峰を往復した健脚組らしい。稜線下り登り返して一の谷分岐 14:20。西稜線から登山者(縦走者)が下りて来て挨拶。近くにあるちち山の情報を下山者のパーティーに教えてもらいトライ。急坂登り 1Pさらに進み、途中より右に上り稜線進む。途中藪と岩に阻まれ、トラバース道辿り、急坂の左下からの本道と合流。急坂経て進むと4人パーティの女性に会い、ここでこの時刻に人に会うとは思わなかったと云われつつ挨拶。急坂登り進み(ちち山)山頂。大きな岩。祠のある山頂で雲り、風あり、参拝、来た道を確認しながら本道よりトラバ道経て稜線を進み、下ると丁度先程の4名と再会。話をしながら銅山越分岐。道不案内で同じ登山口に降りるので同行希望あり。道の概略教えて笹原の覆う道を先に下る。一ノ谷分岐で待ち、覆う笹のない道を一緒に下山。地元の方2名と大阪から来た2名で寒風山口から縦走し、笹の覆いが酷く時間を要した様子。最近知り合った山友達とのこと。樹林の紅葉・ブナ等の大木・黄緑のキレイな葉が陽光に輝きのを楽しみながら、沢を経て橋口の登山口に戻る。迎いの車を待って、見送る。

○10/28「大座礼山」山頂 6:45「東光森山」同 9:45 晴れ 5:35~11:05(5:30)大田尾越よりそれぞれ往復。西へ急坂ロープ、なだらか稜線を幾度か繰り返して高度を上げて行く。途中で日の出を拝む。三ツ森分岐経て稜線のブナ等の樹林帯進むと大座礼山山頂。二等三角点、稜線上の丘の山頂で、朝日・青空・雲風・小鳥のさえずり・山々の眺めが心地よい。うわさのブナの大木の現況確認に南側に回り込みつつ、急坂下り平坦地。進むとブナの森。云われていたブナの大木は、板囲いの巨木2つは、枯れてて残念。ロープ張りから見える後継のブナ巨木等ブナ林を少し楽しむ。来た道戻り大座礼経て稜線進むとブナ等の樹林帯があわい霞・陽光の薄明りに照らされ幽玄の世界を魅せられる。分岐経ていくつかの急坂を慎重に下り、大田尾越に戻る。すぐ向かいの登山口から急坂登り、同じく整備された坂・緩やかな道を繰り返す、1P 経て右回りに徐々に下る。鞍部より登り返し、急坂・なだらか、急坂等繰り返す、最後の急坂・ロープ道を慎重に登り進むと東光森山山頂。三角点あり、小岩の丘の山頂。風あり、山々の眺めよい。来た道を急坂慎重に下り、稜線は遠くに大座礼の林道を確認しながら戻る。時間は早いですが、今回はここまで。

○10/22(火)祝日 香川西2山(4山)晴れ

○「大麻山」7:20~11:00(3:40)登山口不明で西側の集落奥より往復。作業舗道進むもすぐ途切れ、目印なし。やむなく上へ上へと石垣等ある樹林帯を登り進むと林舗道。横切り樹林帯へを幾度か繰り返して高度を上げ、林舗道進むとゲート。その左脇の石段より整備された道を進むと公園広場の展望台。その先に桜並木を進むと大麻山山頂 8:45。二等三角点、電波塔ある広場の平坦な山頂。虫の音等静か。帰りに展望台より瀬戸内と街の眺め楽しむ。林舗道終点に戻り、来たルートらしきを下ってみたが、途中より知らないところ。やむなく下へ下り果樹園経て県道に出るも、方向間違えて50分のロスをしつつも、瓦谷川上流へ急坂登り無事駐車地に戻る。

○「我拝師山」11:55~17:10(5:15)大阪峠より往復、五岳山巡る。稜線の急坂を一気に登り

進むと我拝師山山頂 12:30。三角点あり、樹林の中の平坦な山頂。街、瀬戸内の眺め良い。登る途中、地元の方に五岳山縦走しているとの山情報もらいついその気になり、行けるところまでとトライ。西へ急坂岩稜帯を慎重に下り、禪定寺。急坂登り返して(中山)山頂:樹林の平坦なピーク。稜線を一気に下り、鉄塔を左に進み登り返すと(火上山)山頂:13:30 三角点あり、樹林の中の平坦な山頂。アケビあり。そこから稜線を引き返し、中山・我拝師山経て出発点の大阪峠 15:10。稜線の東側へ坂登り進むと分岐経て(筆ノ山)山頂:15:30 三角点あり、丘の平らな山頂。陽光・山々・街の眺め良い。一休みして、稜線分岐に戻り、平谷登山口へ下る。舗道に出て、地元の方に進む山への道を教えてもらい感謝。直角カーブ先の稜線に出て整備された道より、石段道に合流し、休憩所経て先を左に稜線尾根を登り進むと五岳山最後の(香色山コウシキヤマ)山頂 16:25。石碑等ある丘の広場の山頂。夕日・山々・街(善通寺)の眺め良い。地元のハイカー幾人かに会う。来た道を平谷登山口、稜線分岐経て大阪峠に戻る。

○10/19(土)10/20(日)愛媛中部 5 山

○10/19「障子山」10:45~12:45(2:00)小雨 林舗道終点登山口より往復。急坂経て植林地のつづら折れの道を道らしきを確認しながら登り稜線。茂る草をかき分け登り進む。種子に好かれ、ズボン・タオルにつき放題。少しづつとり除きながら進むと猪とご対面。脇へ猪がそれたので難なく通過。2つのルートとの合流点経て障子山山頂 11:45。一等三角点、樹林の中の平坦な山頂。北側開けるも、雲・小雨で視界今一つ。来た道を確認しながら戻る。

○「牛ノ峰」15:35~17:15(1:40)林道石畳・上瀬駐車地より往復。登山口探して、地元の方に教えてもらいつつ、何とか山入口らしい、手摺りスロープ道を登り進むと後で知る地藏堂。右へ稜線進むと吹き流しのあるハングラライダー場。先へ進もうとするが、道らしきなく引き返す。堂より下に降りて林道進み、林道ピークの先へ。ただ、案内版のみで右側に登れる気配なく再度お堂へ引き返す。反対側の稜線進むも、道らしきなく、茨道。途中で引き返してお堂で案内を再確認。方角等確認し吹き流しの先へ茨の小藪分け進み再び林道に下る。案内の先に下ると牛ノ峰入口の案内板を確認 16:20。坂を登り、植林の稜線道をアップダウンしテープ等確認しながら進む。踏み後らしきを辿り進み、牛ノ峰山頂 16:45。二等三角点、植林地稜線の樹林の中の平坦な山頂。雲等で視界今一つ。来たルートを確認しながら林道表示板経て林道をそのまま戻る。

○10/20 晴れ「壺神山」6:35~7:00(0:25)林舗道終点電波塔より往復。砂利林道進み、終点の電波塔の間を抜け植林地の道らしきをテープ等頼りに進むと壺神山山頂。一等三角点、朝日・風強い。樹林の中の平坦な山頂で、視界今一つ。

○「神南山」8:50~9:55(1:05)砂利林道広場口より往復。車で林道先まで行こうとするが進めず戻り、広いスペースに車止めて、作業道を進む。分岐を直登し草分け進む。先も伐採道続き、上へ上へとショートカットしつつ登る。最上の道から尾根稜線の本道に出て進むと神南山山頂 9:20。二等三角点、電波塔脇の丘の山頂。林道が山頂まで来ていた。陽光・虫の音が心地よいが眺め今一つ。来た道戻るも、途中ルート見失いつつも、直登口等経て迷いつつも、無事戻る。

○「御在所山」11:50~12:50(1:00)林舗道終点先より往復。林道進み鳥居より入り、再び林道。先に第一、二、三のカルストの森(白い石灰石の水に溶けた穴ある岩群)を経て、坂を登ると大きなカルスト岩(最高点:帰路確認)。稜線進み、急坂下って神社(林道終点)。坂を登り進むと御在所山山頂 12:15。二等三角点、樹林の中の丘の山頂。木漏れ日、虫の音、静か。樹間より眺めあり。来た道下り、神社参拝し、カルスト岩稜のピークを確認し戻る。今回はここまで

○10/11(金)休み~10/14(月)山口東 13 山(2 山)鳥根西 1 山 連休の遠征

○10/11「城将山」晴れ 9:40~11:30(1:50)神社近くの登山口より往復。案内表示なく、道らし

きを横に進み竹林に登山口の札あり。植林地の中の道を進み、尾根に出て、急坂・ロープ道等経て、大岩の先が城将山山頂 10:30。三角点あり、広葉樹林の平坦な山頂。山々の眺めあり、鳥・虫の声。来た道を急坂は右足首に注意し転ばぬよう慎重に下り戻る。

○「馬糞ヶ岳」13:30~15:30(2:00)木谷峽側(東側)の林舗道分岐ゲート口より往復。舗道登り進み終点は、草丈高い小藪。道らしきを分けて進み、西側の尾根を目指す。獣道らしきを進み、藪の薄いところを探し登り進む。背丈以上の細い笹藪となりかき分け尾根へ。藪は続き、上へ上へ分け進み、藪が薄くなり進むと本道らしき、テープある道へ出る。笹を分けながら進み、三差路の縦走路に出て、少し安堵。左へ進むもわかる表示なく、途中の別道分岐で、山の方向わかり、広く整備された平坦な稜線進み馬糞ヶ岳山頂 14:30。一等三角点、樹林・笹の平坦な広い山頂。山々の眺めあり、晴れて心地よいひと時。来た稜線道戻り、三差路分岐は、藪を恐れ長野山へは進まず、右へ来た道辿る。来た藪道分岐経て下り、テープ頼りに進む。笹分け進み沢に出て後は目印ないため、方向を確認しつつ、小藪を分けゆっくり下る。背丈以上の草の道らしきに出て草を分けて進み、来たルートに出て舗道経て無事戻る。

○「長野山」曇り 17:00~10(0:10)長野緑地公園Pまで車で舗道進み駐車し散策。三角点あり。展望台を確認するも曇り、台風の影響で風強く、視界今一つ。

○10/12「金峰山」6:30~8:50(2:20)曇り、林道途中より往復。昨晚より台風の影響で強風が吹き荒れる中、出発。林道を淡々と進み、水場の終点より山入り。植林地の中の道を登り進み 1P(一の岳)山頂 7:25、鉄塔脇の樹林の中のピークで金峰山が見える。一旦下り、急坂登り返して進むと金峰山山頂 7:40。二等三角点、反射板3基ある平坦な広い山頂。山々、集落の眺め良い。強風・時折小雨。来た道を急坂は慎重に下って戻る。

○「千石山」11:00~12:20(1:20)曇り 千石林道南側より往復。車で道を間違え時間浪費。焦りつつ、登れる植林地へ回り、竹林尾根経て、岩・樹木の急坂尾根を上へ上へと登り進む。頂上間近かで、茨の多い本藪。杖を使い道を開きつつ分けて進むが、中々進まない。少しずつ登り進み、鳥居口に出るとすぐ千石山山頂 11:45。山々・ダム・瀬戸内の眺め良い。電波塔、霊場のあつ広い丘の山頂。別に立派な道を確認。来た方向へ戻る。藪を避け、植林地をドンドン下り、一気に林道駐車地まで下った(下り 0:25)。

○「筋(アザミ)ヶ岳」13:55~15:20(1:25)林道駐車場より往復。雨ぱらつき強風の中、車1台あり、林道を進み、途中で登山口。急坂植林地の道を進む。整備された急坂道を強風・時折小雨に会いながら、黙々と登る。2,3ノ鎖分岐は巻き道を進み、筋ヶ岳山頂 14:40。奥に避難小屋、ブナ林の見事な山頂。強風で先には進めず。三角点あり、強風で視界今一つ。若者に会い挨拶し、来た道を一気に戻る。

○10/13「弟見山」山頂 8:00「三ツヶ峰」同 10:45 6:45~11:50(5:05)仏峠より別方向へそれぞれ往復。案内表示より植林地道登り、稜線。落ち枝を払い、アップダウンしながら進み、1Pより下り、急坂登ると平坦な稜線。間もなく弟見山山頂。三角点ある平坦な樹林の中の山頂。晴れ、強風の中、山々の展望あり。来た道戻り、仏峠。反対の北側へ植林地の急坂登る。踊り場・ピーク・下りを繰り返し笹を分けて進むと三ツヶ峰山頂。三角点あり、強風の青空の下、北側の山々・集落の眺め良い。稜線上の平坦な山頂。稜線の先の高岳へ進みたいが笹と持参食糧不足で断念し来た道に戻る。

○「高岳」13:25~16:55(3:30)本谷林道ゲート先より往復。鳥取側から車でのアプローチ難しく断念し山口側からトライ。あまり歩かれていないような林道を進み、朽ちかけた木橋渡り旧道跡のコンクリ塊のある道登り、登山口 14:00。合目表示頼りに、沢沿いの道を登り進む。少し荒れ

ている道を進み、樹林地のトラバ道経て5合目桐ヶ峠 14:35。あとは、左へ稜線道を合目表示確認しながら、淡々と登り進み山頂過ぎて展望台 15:15。山・集落の眺め良い晴天。直角分岐に戻るとそこが高岳山頂、三角点あり、ブナ等樹林と木漏れ日を楽しみ、来た道を時間を気にしながら一気に戻る。

○「十種ヶ峰」17:50~18:35(0:45)頂上直下駐車場より往復。薄暗くなり、急ぎ足で、鳥居経て、神社との分岐。ここから急坂を喘ぎなら急ぎ登り、さらに2段進むと十種ヶ峰山頂 18:05 一等三角点、方位表示のある、広い平坦な山頂。満月・夕焼け・山々の眺め楽しみ戻る。

○10/14「青野山」島根西 4:35~7:05(2:30)笹山口より往復。ライトをつけて出発。整備された植林地の階段道を距離表示を頼りにゆっくり進む。5合目近くより明るくなり、淡々と急坂登り青野山山頂 6:10。二等三角点、岩の多い、平坦な広い山頂。ご来光を拝み、山々の眺め確認して、急坂階段道に戻る。

○「寂地峡」「右谷山」山頂 12:05「寂地山」同 13:45 9:25~16:00(6:35)寂地峡案内所駐車場より大周回。林舗道進み、キャンプ場の橋を渡り急坂登ると通行規制の稜線。稜線を右先へ進むが、表示は境界標のみ。やむなく戻り、西へ下ってゆく。崩壊しかけた階段下ると大岩の観音が崩れかけており、下に着くと立入り禁止表示。そこで本道に合流し、寂地峡の溪流、木漏れ日を楽しみつつ、沢を上流へ。時間表示に助けられ進み、左の沢への分岐。沢沿いの道を進み樹林帯経て稜線のミノコシ峠 11:40。一息入れ、南へ稜線を登り進む。1P経て下り登り返すと右谷山山頂。三角点あり、樹林の中の丘の山頂。登山者に挨拶。来た道戻り、1P(錦岳:テープ等あり、稜線直角曲がりの丘の山頂)。下って、みのこし峠経て先へ(東)とアップダウンし、カタクリの群生地立ち入り禁止表示を確認しながら進む。途中バテて、食事し一息入れて、なだらかな稜線進むと三差路。そのまま直進し登り進むと寂地山山頂。晴れて木漏れ日が心地よい。ブナなどの大木多い丘の山頂で祠あり拝む。来た道三差路に戻り寂地林道へ。整備された道(階段道等)で淡々と森を楽しみながら下り、延命水で喉を潤し、林道終点に出る 14:35。あとは林道歩き。黙々と下り、途中犬戻りの遊歩道に出て沢・滝を楽しみ、再び林道に出ると舗道となり、溪流を楽しみつつ長い林道歩き経て無事、寂地峡案内所に戻る。今回は台風を避けた山歩きでここまで。

○10/5(土)6(日)愛媛北3山(1山)

○10/5 晴れ「近見山」9:35~10:05(0:30)山頂下駐車場より往復。林舗道進み石段登ると展望山頂。公園に東屋あり、しまなみ海道橋、瀬戸内、今治の街の眺め良い。奥に電波塔あり、階段下り、奥への道を草分け進むとすぐ電波塔。その奥に二等三角点のある近見山山頂。樹林の中の丘の山頂。視界は今一つ。来た道戻る。地元のハイカーが多い身近な山。

○「明神ヶ森」11:20~17:45(6:25)三本杉入口より往復。鎖のゲートより林舗道を進む。分岐1つ経て先に石柱の寺への案内(18丁)で右へ。急坂のコンクリ道を淡々と登ってゆく。砂利道となっても整備されている坂を進み 10 丁辺りで左へ寺の案内。丁目指標の石を確認しながらなだらかな道を進む。竹林経て石段を登ると福見寺。参拝し、右の標識より急坂植林地を登り進む。稜線となり進むと(福見山)山頂 13:35。樹林の稜線のピーク。標識・図根点あり。先へ稜線を下り、鞍部で旧林道を確認し急坂をリハビリの右足首を注意しながら、ゆっくり登り進む。あとはなだらかな稜線道をテープ等に助けられながら進み明神ヶ森山頂 14:35。三角点あり、ヒノキ植林と広葉樹の境界の丘の山頂。北側に山々の展望あり。虫多く、静か。来た道戻り、急坂は滑らないよう慎重に下り、鞍部で旧林道に降りて林道歩き。落石・崩壊が数か所あり、大きな鳥居を確認。遠回りのため、途中ショートカットして進み、福見寺 16:10。参拝・休憩して、来た丁目石(1~

18)を目安にゆっくり足を労りながら、コンクリ急坂下り、林舗道口。舗道を進み、天然記念物の三本杉(巨木)の神社を参拝して戻る。

○10/6「東三方ヶ森」6:10~13:20(7:10)林道(阿歌古谷線)の砂利道を進み、堰堤を横切り、奥へ。沢沿い道を進み、橋を渡り、車両終点より落石・一部崩壊しつつある道を登り高度を上げてゆく(アケビの殻多い)。旧林道終点より、トラバース道を1カ所危険なところを慎重に通過し沢沿いの道へ。渡渉して沢歩きとなり目印テープ等確認しながら、左岸を進む。竹林に出会い始めて山の案内表示を確認 7:35(少し安堵)。ここから急坂のガレ場経てトラバ道進み、植林の急坂道へ。つづら折れの道をゆっくり進み尾根。ここから急坂続きで、落ち枝を払いつつ、テープ等便りに登る。緩斜面経て枯れ笹の狭い急坂を苦戦しながら登り進み稜線。1P経て進むと分岐で左へ。ここからが難所続き。天候が曇りで風あり、パラパラ雨も。いきなり急坂下りで、木の根等掴まり、右足首を労りつつ、慎重に下る。鞍部で一息。急坂登り返す。あとは同じような細尾根を3ピーク上り下り。4ピーク目のブナ林は見事。そのピークに分岐あり、左へ進むと東三方ヶ森山頂 9:50。二等三角点、樹林の中の稜線ピークの山頂。風・霧・小雨で視界今一つ。来た細尾根を淡々と慎重に上り下りして分岐。1Pより細い枯れ笹道を慎重に下り、緩やかなところで若者2人会い挨拶。縦走歩きで山話して緊張が少し緩む。急坂植林地道・ガレ場経て竹林。沢歩きは目印確認しつつ淡々と進む。トラバ道の危険カ所は、迂回して林道終点。あとは明るい陽射しの中、陽光に照らされ輝く清流を楽しみつつ無事戻る(リハビリにはややハードルが高い山)。今回はここまで。

○9/28(土)29(日)香川西3山(1山)高知北1山(1山)愛媛北1山 リハビリ山歩き

○9/28「太平山」12:10~25(0:15)小雨 鎖の林舗道ゲートより往復。舗道進み電波塔脇のテープ辿るとすぐ太平山山頂。二等三角点、樹林の中の平坦な山頂。近くに車で移動。

○(猪丸山)12:30~45(0:15)林舗道ゲート口より舗道を往復。ピークはすぐで、右に登ると今年の干支の名のついた山頂表示あり。樹林の中の平坦な山頂。アケビあり。戻りは天候が回復

○「城山」13:40~14:05(0:25)晴れ 林舗道ゲート口より往復。鎖ゲートより進み、草を分けて進み公園駐車場。舗道進み城山山頂。一等三角点、公園広場の山頂で展望台あり、瀬戸内、山々・街の眺めあり。

○「飯野山:讃岐富士」14:45~16:50(2:05)丸亀口の弥生の広場より往復。リハビリには、少し長めの山歩き。広場入り口の階段道より登り、林道横切り急坂進むと登山口。広い登山道をゆっくり進む。登りは、石等気にしながら、足は小幅にてなだらか道を進む。登山者多く下りと登りの方とすれ違う。合目表示と時折見える街・山並みの展望を楽しみ、猫2匹にも遭遇しつつ、登り別登山道との合流点。その先は急坂に入って進み飯野山山頂。記念碑・三角点・社ある、広場の平坦な山頂。幾人かのハイカーに挨拶。来た道を時折、右足に痛みを感じながらゆっくり戻る。蒸し暑く、蚊にも刺されたが無事戻る。

○9/29「西黒森」8:40~10:30(1:50)林舗道登山口より往復。すぐ稜線に入り左へ。トラバース道、笹原の道経ていくつかのピークを越えて進む。途中、岩々、鎖等あり、緊張しながらゆっくり足元を確認しながら稜線・トラバ道進む。トラバ道の分岐で山頂表示の右へと急坂にとりつく。笹・木・岩等掴みながら。急坂を一步ずつ慎重に登り、笹原経て西黒森山頂 9:25。近くの瓶ヶ森、遠くの石鎚等の山々の眺め良い。笹・灌木・岩の山頂で、西条の街、瀬戸内の眺めあり。北側は絶壁。来た道を笹を分けつつ足元を確認し急坂は滑らないよう慎重に分岐に戻り、後は、足の位置で時折痛み感じながらもゆっくり下り無事戻る。舗道から秋晴れの大展望を楽しむ近くに車で移動。

○(東黒森)10:45~11:50(1:05)林舗道登山口より往復。笹道を登り、稜線をゆっくり進む。樹林帯へ入り、トラバ道進む。下山者に挨拶して、笹原の下が岩々のつづら折れの道を進むと東黒森山頂 11:15。山々の眺め良く、そよ風が心地よい。虫多くすぐ下山。来た道をゆっくり足元を気にしながら下山。

○「高縄山」14:55~15:05(0:10)車で山頂まで行き、階段登りすぐ高縄山山頂。一等三角点、社あり、参拝。電波塔の脇の山頂で、山々の眺めあり。

○あまり歩けない山歩き(下りは時折足に痛み出るため、慎重に時間かけて下るリハビリ歩き)

○9/21(土)曇り 徳島東2山(1山)

○「旭ヶ丸」13:45~14:40(0:55)林舗道ゲート広場より往復。台風の影響で天候が悪化傾向。風強く、雲で視界乏しい中、階段道より、風力発電の下を通り、林舗道進み、登山口。左へ進むと下るみたいで引き返し整備された道を進む。放牧場脇の道を登り進むと展望台。その先に旭ヶ丸山頂。一等三角点、樹林の中、平坦な山頂で、雲もあり視界一つ。風あり、来た道を放牧場・風力発電等の景観を確認しながら戻る。近くに山あり、林道を車で移動し山歩き。(高鉾山)14:55~15:35(0:40)砂利林道口より、南高鉾・本峰を往復。小雨の中、南へ進むと間もなく南高鉾山。林道に引き返し反対側の道進み、林道工事中の道を横切り、急坂経て稜線を右に90度に曲り進むと高鉾山本峰山頂。平坦な広場の山頂。雲風あり、視界今一つ。来た道戻る。

○「太龍寺山」17:55~20:50(2:55)林舗道の駐車場(湧き水豊富)口より往復。薄暗い中、急ぎ足で1km表示のある林舗道進む。四国八十八か所の太龍寺に参拝し、多宝塔の先の尾根を淡々と登ってゆく。大岩経て進み途中から境界標道と合流して大龍寺山山頂。先に三角点を確認 18:35。樹林の中の山頂で、街明りキレイ。下りは急ぎ歩きで方向感覚も狂い、止む無く、境界標辿り下るが、鞍部の山表示板で確認すると反対方向に降りた模様。小雨の中引き返し、施設まで行くがその先に道なく、方向を確認してトラバース歩き。急坂等不安も募り、進む中、下に林道らしき見える。明日台風等の荒天で今晚いつ雨が降り出すか不明で暗い中、追い詰められ、ゆっくり下らずに何を思ったか、そのまま、林道へ飛び下り。滞空時間が長く高度があり、着地した林道が岩道等で固く、右足首に痛みを感じながら着地。ヤバイと思ったが後の祭り。右足首の痛みはそのまま。2本の杖を頼りに右上へ石仏を拝みつつ進むと南の舎心嶽で、弘法大師の大きな像あり、足を引きつるようによじ登り、参拝 19:45。現在地の確認に山表示のある場所へ戻り行ったり来たりしつつ戸惑う。止む無く登ってきた林道を降りてゆくとロープウェー山頂 20:10。石段を登り再度大龍寺を参拝し、来たルートに出合い、林舗道を痛めた右足首を引きずるようにゆっくり下り駐車場に何とか戻る。右足首が腫れて、翌朝、香川の五剣山に強風・小雨の中トライしたが、右足が動かず、ゆっくりの歩きで1Pで祠拝み、先は、岩山で強風で通行不可。足首の痛さ感じつつ、何とかゆっくり下り、戻る。後日、整形外科でレントゲン等確認してもらい、骨に異状はないが、足首がかなり腫れており、治るのに時間を要す見立て(足が使えなくなるのではと大変危惧したが、少し安堵)。久しぶりに4千名山歩きしたと思ったらこの状況で当面山歩きは自粛の方向？

◎大反省:①山での林道等への飛び下りは厳禁、②暗い時は、無理を絶対にしない。とんでもない程、厳しい教訓となった。

○8/31(土)9/1(日)徳島西5山

○「黒笠山」9:25~13:45(4:20)白井林道登山口より往復。雨時々曇り、雨本降り待機し小雨になり出発。先に見える標識に向い、橋を渡る。植林地の坂道を表示に助けられながら、石積

みの植林地を進む。旧家屋経て案内表示のある分岐で左へ。トラバース気味に山腹を登り進むと距離表示の4号標識。左に沢を見つつ、斜めに登ってゆく。幾つかの沢を経て沢終点より進むと黒笠神社で参拝。奥へと進み、急坂経て稜線。樹木の疎らな歩きやすい道を進むと矢筈山からの道と合流。東へ岩々の稜線を慎重に進むと黒笠山山頂 11:50。南側は絶壁の山容の美しい山。山々の眺めあり、風強く、曇り。来た道を岩稜は慎重に下り、標識・テープ等確認しながら、沢を楽しみつつ戻る。

○「高越山」16:30~19:55(3:25)曇り時々雨 山の西側林道途中より往復。削られた林舗道手前より舗道歩き。しばらく進むと牧場跡が舗道終点。あとは、砂利の林道を淡々と登り進む。旧作業小屋経て高度を上げ進むと平坦な地蔵平。鳥居経て左より進むと高越大権現。これが山頂と勘違いし鳥居に戻り再度確認。次に高越寺へと鳥居の右側の参道を急ぎ進み、寺に出て参拝し、左の山へ階段道経て進むと稜線分岐。右へ進み一等三角点を確認。分岐に戻り、左へ稜線進むと太子像のある高越山山頂。夕焼けがキレイ。暗くなりかけで、急ぎその稜線を進み、奥の院の大権現を再び訪れ、急ぎ地蔵平に下る。あとは林道歩き。急ぎ足で一気に進む。薄暗い中、(ライトも点けられず:車に忘れて)空の明かり、街明かり頼りに淡々と下り、旧放牧地に出て、舗道歩きとなり、少し安堵して無事駐車地に戻る。

○9/1「雲辺寺山」6:50~7:55(1:05)寺管理道手前より管理道、四国のみち(お遍路)進み、途中より電波塔へ急坂登り、電波塔の1P。道を下り、スキー場経て階段登ると広場の県堺分岐標のある雲辺寺山山頂。毘沙門天像の脇の公園で、山々の眺め良い。四国八十八か所の雲辺寺を参拝し戻る。

○「国見山」9:25~12:20(2:55)後山峠登山口より往復。植林地の整備された急坂道を導水管を見ながら進み、上の林舗道に出て、登山道案内を確認。コンクリ道経て樹林の中へ。急坂の植林地をゆっくり登り、稜線に出て左の側道をアップダウンし進むと避難小屋のある神社。参拝して奥の急坂登ると国見山山頂 11:00。二等三角点、芝草の丘の山頂。方位盤あり、曇りで視界今一つ。来た道を樹林帯。植林地の景観を楽しみつつ戻る。

○「塩塚峰」13:50~14:20(0:30)林道登山口より往復。雲で見えない中、急坂登り始めるといきなり強い雨。林道に出て進むが、濡れるため、上に雨具付けて進む。別道の舗道終点に出て左の草原より登り進むと急坂の階段道。雨を気にしつつ、ドンドン登るとなだらかに間もなく塩塚峰山頂。二等三角点、草地の丘の山頂。雨は小雨から止む。周りの山々、霧の森高原の展望を楽しみながら戻ると晴れてきた。今回はここまで。

○8/23(金)夏休み 24(土)香川南4山、徳島西2山(2山)夏シリーズ

○8/23「矢筈山」(女体山)11:45~14:05(2:20)四国八十八か所大窪寺Pより往復。四国のみちの整備された遍路の階段道を辿り、登ってゆく。舗道経て登ると(女体山)山頂。曇りから晴れてきて、奥の見晴らしから街・山の眺め良い。東屋のある平坦な山頂。

下って舗道経て向かいが矢筈山登山口。急坂登り、岩稜のピーク等を越えて進むと矢筈山山頂 12:55。一等三角点、樹林の中の丘の山頂。樹幹より展望あり、セミの声するも、日差し・風は秋色でさわやか。来た道戻り、奥の院を参拝し、大窪寺も参拝して戻る。

○「大滝山」15:30~40(0:10)西照神社口舗道より往復。尾根の境界標頼りに進むと間もなく神社の奥に大滝山山頂。樹林の中の丘の山頂。陽光、風あり。

○「竜王山」16:35~18:30(1:55)キャンプ場より往復。林道進み、終点より山入り。樹林帯進み、明るく広い伐採跡に出て、合目表示、テープ等頼りに、作業道等横断し高度を上げてゆく。尾根に出て間もなくトラバース道。三叉路に出て左へ急坂登ると(東竜王山(讃岐))山頂。樹林の

中の平坦なピーク。急坂戻り、先へと稜線を下り、登り返して進むと竜王山山頂(西・阿波)。三角点あり、展望台あるも、樹林の中の平坦地で視界今一つ。鉄塔が周囲に乱立。来た道を森を楽しみながら戻る。伐採地に出ると下から大音響の音楽。戻るとキャンプ場の利用者で静寂より夏・音楽を楽しむ若人であった。

○8/24「日の丸山」5:45~8:15(2:30)林舗道(奥のダムのかなり手前)脇の小さな登山道表示より往復。昨晚より雨続きで何とか上がったので出発。登山道らしき進むが、境界標がわかりやすく、登山道と思しきトラバースの獣道を辿ることを諦め、尾根歩き。アップダウンしながら進み、1Pで、先に進むも下りと方向替え進むも急坂で林舗道が見えて、登り返して1Pへ戻る6:35。やむなく撤退とあきらめて尾根を戻るとすぐテープが左へと案内してくれている。尾根をアップダウンしながら進み、トラロープの植林地の急坂等経て進む。そのピークで道が直角に右に折れてさらに進み、急坂経て植林地進むと日の丸山山頂7:15。二等三角点、樹林の中の丘の山頂で、空が展望でき、静かで時折風で雨粒が落ちる。来た道を急坂は慎重に下り一気に戻る。

○「腕山」10:05~12:05(2:00)市町村境界尾根より往復。立派な地蔵を拝み、境界標を辿り尾根を登り下りして進む。植林地ピークで左に方向を変え進むと明るい作業道終点。作業道進み、合流点より再び山道へ。程なく本道と合流して南へ。稜線道を台風で落ちた枝等を分けて進む。右に曲がって急坂等経て進むと腕山山頂11:15。三角点あり、平坦な草地の山頂。雲・風あるも、虫多くすぐ下山。森歩きを楽しみ戻る。

○「大川山」15:30~55(0:25)キャンプ場下の駐車場より往復。階段・キャンプ場経てすぐお寺、その奥が山頂。秋葉神社口の右に三角点あり。山々の眺め楽しみ神社参拝して戻る。

天候が今一つであったが、いくつも山歩きでき、道の駅で温泉も満喫できて大満足。

○8/17(土)18(日)高知北4山(1山) 夏山シリーズ

○8/17 高知北2山(1山)「伝説のハイカー編」晴れのち曇り

○「天狗塚」山頂14:45「綱附森」同17:25 11:25~20:25(9:00)光石登山口より往復。

整備された登山道を左に深い沢・右に急斜面の山を見て、下り進んでいく。時折、小沢流れ、水量が豊富。木橋を2つ渡り、堂床。表示あり、ここから右に沢・滝を見つつ階段道を進む。避難小屋経て進むと川へと下る。赤等の目印テープ探しながら行ったり来たりして進むが、2本テープから先が不明に。已む無く、左の尾根の枯れ竹の獣道らしきを上へ上へと辿ってゆく。樹林に笹が混じり出し、笹を分けながら、登り進む。なだらかとなり尾根稜線。赤いテープも見かけ、登山道らしい道となる。アップダウンしながら細尾根を進み、急坂のトラロープ、草丈のある、急坂を登ると(地蔵ノ頭)山頂。綱附森への案内板あり、丘の山頂で、三嶺・天狗塚の山容等眺めを楽しむ。下り三嶺・天狗森の分岐。笹原の中の道を進み急坂経て天狗塚山頂。ミヤマササが周りにある、平坦な笹原の丘の山頂。山々の展望・沢の音を楽しむ。下って分岐に戻り、綱附森(あと4km表示)へ向かう。地蔵ノ頭経て急坂を慎重に下り、稜線を進み、合流点を確認し、あとは樹林帯をドンドン下ってゆく。広い稜線のため、一度尾根を間違え進み引き返し、方向を確認(南へ)しながら下り鞍部で堂床への分岐表示16:20。ここから樹林帯の稜線をアップダウンしながら進む。途中左へ方向変え、笹原が広くなり、テープの目印が見えなくなる。やや深い笹を分けて登り笹原丘の1P。笹原の道をかき分けて下ってゆく。鞍部より登り返すが、笹丈が大きく、深く、中々進まない。ズボンも笹露で濡らしながら、前へ、上へと少しずつ進む。笹の坂を上り岩稜地で一息。先も同じように、深い笹だが少し歩きやすくなり、平坦となり進むと綱附森山頂。笹原の中の平坦な山頂。三角点あり、曇りで視界今一つ。四方とも笹原で明確な踏み後も明からない山頂。虫多く来た道戻る。岩稜地まで軽快に、そこからも笹の上に乗るよう下っていく。途中鹿道に迷い引き返し、来

た道を下り、登り返して笹原の1P。下りは笹を分けて段差を確認しつつ下る。笹原から樹林帯へ進むと目印テープ確認しながら稜線を下ってゆく。意外と笹原歩きに時間をとり、三差路分岐に18:30着。ここで標高1500mで500m強下らなければならない。暗くなるまで時間がなく急ぐ。樹林帯から沢の渡渉を繰り返す道で時間がかかる。渡渉し広い尾根に出ると薄暗く、テープ等目印の見分けがつかない。已む無く下へ下ると急な下りで、一旦ドリ、渡渉後尾根を探し、巻いて進む。下り、急坂で引き返しを繰り返す、広い尾根(両側から沢の音が聞こえる)で暗さが限界。一息入れライト付けて、来た方向と下る方向を磁石・略図で確認。方向は東へと、尾根を下りつつ、東へいくつかの沢を越えてゆく。尾根を下るうちに竹林に出て程なく本道に出る。少し下ると堂床の表示地に無事に出た20:00。あとは、明かりの視界が狭い中、2つの木橋渡り、沢水楽しみ、右の急斜面の沢に注意しながら登り返して無事光石登山口に戻る。月明り・星空がキレイで感激。

○8/18 高知北2山「白髪山」5:25~6:55(1:30)晴れ 広い駐車場のある登山口より往復。水などで削られた階段道を進む。台風の影響で落ち枝多い。ゆっくり進んでいると後ろから地元の方が、一気に進んでいく。途中朝日を見ながら樹林帯から笹原の道となり、分けながら上へと笹原の道を登り進むと白髪山山頂。三角点あり、笹原の中の平坦な山頂。三嶺・天狗等山々の眺め良い。沢の音・朝日・月に朝の息吹を感じる。三嶺への分岐を確認しつつ、来た道を一気に戻る。

○「矢筈山」9:10~11:00(1:50)矢筈峠より往復。整備された道を樹林帯から登り進み、笹が現れ、石の階段道経て笹原草原路へ。雨水等で削られた深い溝道と並行する道を淡々と進む。丁度曇りで風も出て心地よい中進み、稜線分岐(京柱峠・矢筈山)。右へ笹原進む。下山者に挨拶して進むと矢筈山山頂。二等三角点あり、笹原・灌木の丘の山頂。山々の眺め良い。食事後下山。笹原・石階段・樹林帯を楽しみながら戻る。遠方まで来たため、今回は、早めにここで切り上げ。

○夏シリーズ四国編 8/10(土)~8/12(月)徳島中西部7山(2山)

○8/10 晴れ「高丸山」7:35~9:15(1:40)広場の登山口から往復。コンクリ歩道進み、土の階段道経て進むと水場。その上のキャンプ場分岐を山頂へ。すぐに三つ尾の峠。整備された樹林帯の中の登山道を進み尾根。急坂・岩々等をゆっくり進み、高丸山山頂。先の登山者2人に挨拶。東西に細長い芝の山頂。三角点あり、好天下、山々の眺め、風の気持ち良さを感じて下山。ブナ林の森、水の豊かさを確認して戻る。

○「雲早山」13:10~14:50(1:40)剣山スーパー林道(砂利道)の登山口より往復。鳥居経て、沢の音に涼しさを感じながら樹林帯を進み、右斜面伝いに登り、稜線の高丸・雲早分岐。右へと登り進むとまた別の稜線。右へと草原の樹木が疎らで展望の良い尾根をアップダウンしながら進み急坂経て雲早山山頂。二等三角点、草地の丘の山頂、祠あり。山々の眺め良い。アブ・蜂に追われる。来た道を確認しつつ、ブナの樹林帯、沢の清流を体感しながら戻る。

○「高城山」16:10~17:45(1:35)剣山スーパー林道ファガスの森先の第一コルより往復。樹林帯の尾根道をテープ頼りに、アップダウンしながら進む。岩稜もあり、慎重に登ってゆく。急坂経て山頂稜線ですぐ高城山山頂。二等三角点、草原の丘の樹木疎らな山頂。日差し・風共丁度良い。風は秋色を帯びている。帰路は、急坂・岩稜は慎重に、ブナの森を楽しみながら戻る。

○8/11「天神丸」5:30~6:35(1:05)曇り 剣山スーパー林道(砂利道)の登山口より往復。テープ等頼りに岩・苔・細い樹林帯を登り進むと展望所(大岩)剣山系の眺め良い。ミヤマササ(小笹)の道を上へとゆっくり進むと天神丸山頂。二等三角点、小笹・樹林の丘の山頂。展望案内表示あるも雲で視界今一つ。朝日の明るさで、あたりが幽玄の趣きを感じて戻る。

○「権田山」8:25~14:45(6:20) 勘場谷橋口(勘場林道起点)より往復。登山口探しと時折一緒に歩いてくれた愛媛の方に感謝(ユーチューバーで権田山で載せる予定とのこと)。落石の多い林道を左に沢、右に斜面を見ながら進む。水が豊かで幾つもの沢を確認しながら進む。旧小屋より植林帯に入り、作業道の分岐を確認しながら登ってゆく。テープが木に沢山ついた地点から山入り。目印失い上へ進むとまた林道出会い。すぐ先には大きな林道の陥没崩壊地あり。分岐を右に行きその先にまたテープあり、テープ等確認しながら、上へ上へを登ってゆく。平坦な1P経て左に苔のついた岩を登ると稜線。ここは、右へと一旦下り登り返し進むと権田山山頂10:35。三角点あり、稜線のなだらかな草原の山頂。山々の展望良い。東と西側と高い山あり、取り敢えず西へ。稜線を下り登り返して進むと(中内山)樹林の中の山頂で確かに権田山より標高が高い。一休みして先のもう一つの山に行くか躊躇。少し帰りかけて戻って、先へ(西へ)と細尾根・倒木等の道をアップ。ダウンしながら進み、急坂経て(折宇谷山)山頂11:45。ブナ等樹林が東西に細長い山頂。三角点あり、風・木漏れ陽が心地よい。来た稜線を楽しみながら戻ってゆく。中内山から下り進むと大きなブナの木が、空に広がるように聳え、先に行くと兄弟の大きなブナに出会う。ここで愛媛の人に再度会い、写真に納まる。お先にと権田山に戻ると天気が雨模様。来た稜線ピークより、岩苔へ下りさらにそのま広い森を下ってゆく。途中道間違いもして、雨降り続き、上に雨具つけてテープ等頼りに下ってゆく。林道に出て登山口に表示を2か所確認。林道陥没の近くだった。後は来たルートを確認しながら、最初のテープの林道に出て、小雨の中、沢水を楽しみ、淡々と下る。大きな崩壊止め斜面の先で再び愛媛の方に会い、山話しながらあっと言う間に駐車地に戻る。愛媛の方には、いろいろ山を教えてもらい、麓の温泉で汗を流し、食事を共にして別々に散会。不思議な縁に感謝。

○8/12 曇り時折小雨「石立山」5:50~10:35(4:45) 四つ足峠トンネル東口の上の日和田登山口より往復。峠分岐経て廃屋脇を進む。植林地の急坂を右に沢・滝を眺めつつ高度を上げ、渡渉して一息。植林地登り進み、伐採後の草原地帯にオレンジのきれいな花(花弁6片:花の後に大きな実をつけている)が見頃。急斜面をタオルについた植物の種(ガンコ)を取りながら、上へ。再び植林帯に入り、つづら折れの道を進み、尾根末端。岩々・樹林帯を経ながら、岩稜帯も慎重に登り高度を上げてゆく。草原帯になり、旧小屋でロングスパッツ付けて後は、風が強い中、進み、別府ルートと合流してからなだらかな稜線を登る。マムシ2匹に出会い、避けてもらい急坂経て草原を進むと石立山山頂8:35。二等三角点、草地、平坦な草原の山頂。風強く曇りで視界今一つ。来た道確認しながら軽快に降りる。岩稜・急坂は慎重に。オレンジの花を再度楽しみ植林帯で湧き水を楽しみながら戻る。暑かったら、こんなに楽には登れなかったと天候に感謝。

○「神戸丸」13:10~14:15(1:05) 林舗道海川野久保線・熊谷林道分岐の登山口表示より往復。植林地の中、尾根に出て南へとアップダウンしながら幾つかのピーク経て、大規模崩壊止め斜面を左に見て登ると神戸丸山頂。三角点あり、樹林の中の丘の山頂で山々の眺めあり。虫多くすぐ下山。来た稜線尾根を確認しながら下り、植林帯でとぐろ巻くマムシに遭遇し、道を違えたことを確認して右に下り、無事戻る。夏の暑い時期だが、3日間とも比較的高い山で、楽しく歩いて大満足。

○7/31(水)~8/2(金)夏休みで5連休を四国山巡り。 その3

○8/4(日)徳島西2山 晴れ

○「矢筈山」山頂7:20「石堂山」同8:25 落合峠駐車場より往復。5:35~11:45(6:10) 昨夜から天体観測の大きな望遠鏡を構えていた3組を横目に落合峠登山口。笹原を進むが、笹露ですぐにズボンびしょ濡れ。やむなく下に雨具をつけ、淡々と軽快に笹原、樹林帯を進む。1P 手前

でトラバース道へ。笹を掴みながら横切ってゆく。稜線尾根に出て東へと岩々の稜線を行ったり、来たりしながら進み、矢筈山山頂。二等三角点あり、丘の10畳ほどの平坦な山頂。風・小鳥の声を聴く。三差路を遠い黒笠でなく石堂へ。急坂下り、稜線をアップダウンしながら進む。水場分岐経て急坂登ると石堂山山頂。晴れ、樹林・笹原の中の細長い丘の山頂。風・陽光・小鳥。虫の音楽しみ、下の雨具等干しつつ、一休み。来た急坂を慎重に下り、日差し強いが、陽光・樹林を楽しみつつ、登って帰路へ。急坂をゆっくり登り、矢筈山。一息つき下山。7人のパーティーに出会い挨拶し岩々の稜線からトラバ道経て稜線尾根を樹林・笹原等楽しみながら下る。稜線で夫婦連れに挨拶して登山口に戻る。ご主人がすぐ下りてきたので山話して駐車場に戻る。標高1500mあるが日差しは強く外にいると火傷しそうなほど暑い。今回は余裕を持ってここまでとしたが、寄り道(渦潮の道の駅)して、淡路の花火の渋滞に遭い、帰宅は23時頃。

○7/31(水)~8/2(金)夏休みで5連休を四国山巡り。 その2

○8/2 徳島西3山 晴れ

○「赤帽子山」山頂 6:55「丸笹山」同 8:30 5:10~9:35(4:25)夫婦池登山口より往復。整備された源流への道を只管進み、湧き水の豊かさを感じる。貞光川の源流も水量豊かで、のどを潤し、先へ。苔と岩の道を進むと赤帽子と丸笹の分岐で、左へ笹原を進む。アップダウンを繰り返して急坂登り、緩やかな道をドンドン進むと赤帽子山山頂。小笹(ミヤマササ)の平坦な山頂。朝日・小鳥の声、剣等の山々の展望楽しむ。雲が湧き立って来る。来た道に戻り分岐より坂を登ると丸笹山山頂。笹原の丘の山頂。虫の音あり、雲で山は少ししか見えず。三角点あり。分岐経て源流水楽しみ戻る。

○「八面山」11:50~14:20(2:30)奥大野より往復。登山口探しに時間要す。住まれていない廃屋の奥に登山口あり。沢を横切り、進むと天然記念物のアカマツ林を遠めに見て先へ。植林地の急坂登り、山腹の細いトラバース道を慎重に進む。尾根に出て別ルートと合流し進むと神社で参拝。右側の道の急坂をゆっくり進み、段差のある大岩を越えて進むと八面山山頂。二等三角点あり、丘の平坦な山頂。日差し強い中、ヒグラシ、ムシの音を楽しむ。下りは、岩々、急坂を慎重に下り、細いトラバース道もゆっくり進む。尾根に出て動かないカモシカを久しぶりに見かける。あとは、淡々と来た道戻る。夏の日差し強く今日は早めの店じまい。

○8/3(土)徳島西3山(2山)曇り時々晴れ

○「風呂塔」5:30~6:30(1:00)野営場より往復。人気のない旧キャンプ場の整備された林間歩道を進み、急坂経て風呂塔山頂。三角点あり、平坦な山頂で、小鳥。虫の音あり。雲で視界今一つ。帰りに大きなイノシシが悠然と歩く姿を見て、朝の樹林内の歩きを楽しみ戻る。

○「寒峰」山頂 10:50「烏帽子山」同 13:35 7:50~15:50(8:00)雄大な眺めのある落合峠より往復。登山口で親子に会い挨拶し先に山へ。丈のある笹道を進むとすぐズボンが朝露で濡れる。笹原の道を淡々と進み1P。(落ハゲ)で三角点あり、こちらの山系で一番標高の高い笹原の平坦な山頂。ここで先ほどの親子に先に行ってもらいゆっくり後を追う。鎖の急坂を慎重に下り、鞍部で道迷いたがすぐ戻り、急坂を登ると(前烏帽子山)9:05。三叉路の分岐で一休み。烏帽子に向かう親子と別れて南へ。急坂の笹原をゆっくり下って、あとは稜線の樹林帯、笹原を日差しを避けながら進んでいく。踏み跡・テープ等頼りに進み、先に笹原のピークの山が見え、間もなく寒峰山頂。表示あり、笹原の丘の山頂。山々の眺め良い。小鳥・セミの声・風・日差しに夏を感じる。来た道を確認しながら稜線歩き。最後は笹原の急坂をゆっくり登り前烏帽子 12:55。山々の眺め良い。北へと稜線をアップダウンして進むが、笹路の笹を分けながら進む。急坂を笹等に掴まり登ると烏帽子山山頂。三角点あり、東西に細長い丘の山頂で山々の眺め良い。来た道を前

烏帽子・落ハゲ経て笹原の中の道に戻る。疲労で動けず今日はここまで。

○7/31(水)～8/2(金)夏休みで5連休を四国山巡り。 その1

○7/31 徳島東4山晴れ「大麻山」9:55～12:50(2:55)大麻比古神社駐車場より往復。地元の方に登山口を案内してもらい東端の舗道進むと登山道。整備された階段道を辿る。下山者に挨拶し途中から「真名井の水」へトラバース道進む。神社参拝し湧き水でのどを潤し、上へと祠、大木の森を進むと大麻山山頂。樹林の中の丘の山頂。日差しが強い中、神社参拝し来た道に戻る。

○「眉山」14:15～14:35(0:20)公園駐車場より往復。階段道登るとすぐ眉山山頂。一等三角点、ケーブル終点、電波塔のある公園の山頂。徳島市街・海・山々の眺め良い。散策し戻る。車で移動し眉山最高点の森を巡る(14:45～15:40(0:55))。

○「弁天山」16:05～16:15(0:10)駐車場よりすぐ山頂。日本一低い自然の山(標高6.1m)。神社参拝し戻る。

○「中津山」17:20～18:00(0:40)公園登山口より往復。四国のみちの整備された道進み、まもなく中津山山頂。二等三角点、東屋あり。広場の山頂で、散策し神社あり参拝。帰りは、展望台から、徳島市街と山々の眺めを楽しみ戻る。

○8/1 徳島西3山(1山)曇り時々晴れ

「伝説のハイカー編」

○「一ノ森」山頂 8:20「次郎笈」同 10:05 5:50～14:00(8:10)コマトリ口の林舗道最初の山案内表示より往復。案内表示辿り急坂の植林地のガレバを登ると林舗道。横切り、少し登るとまた林舗道を繰り返す。4つ目の林道進むと登山口案内。神社へ登ってゆく。参拝するが先の登り口不明で止む無く、獣道らしきを登ると登山道に出会い、すぐ砂利の林道と出会い横切り、ここから山入り。樹林帯を登り進むと旧龍光寺跡の広い平坦地で大木あり、一休み。あとは、樹林帯の急坂をテープ等に助けられ上へ上への高度上げてゆく。草原帯になり、進むと一ノ森ヒュッテ。管理人の方と先行した登山者に挨拶し山の状況を教えてもらう。そこからすぐに一の森山頂。剣山・次郎笈の眺めがよい丘の草原の山頂。団体の登山者が来たので西へと三角点(二等)確認。戻って稜線へ下り、碑を経て登り返すし進むと(二ノ森)山頂。樹林の中のピーク。稜線を進んでいくと間もなく木道に出て進むと何度目かの剣山山頂。一息入れ、先行の若い二人の後を追うように急坂を下り、別ルートと合流し稜線の急坂をゆっくり登ると次郎笈山頂。三角点あり、小石、小笹の平坦な山頂。丁度雲で覆われてしまい視界なく残念。急坂ゆっくり下り、平坦道でこれからの登りの登山者に挨拶。ノーマルコースのよう。急坂登り返し剣山。先へ進み木道の西端で一休み(車に準備した食料を置き忘れ、飴玉一つでの往復で疲労が出て一息)。来た稜線を淡々と進み一ノ森はう回路よりヒュッテに出て草原地帯から樹林帯へと道を確認しながら下る。龍光寺跡の広い大木地帯楽しむ。砂利林道横切り、登山道を神社に降りてゆく。神社に降りるとタヌキが2匹、まるでここにいるよと言わんばかりに目の前を通過し寺の建物下へ。あとは、来たルートを慎重に確認しながら駐車地に戻る。

○「塔の丸」15:45～18:50(3:05)市町村境界の広場より尾根道を往復。尾根道を登り、1P。先へアップダウン繰り返して進み本道と合流。樹林帯を抜けるとあとは笹原の山々。いくつかのピークを経て、笹路を進んでいくと塔の丸山頂。三角点あり、剣山系が見渡せる笹原の平坦な丘の山頂。夕日、日差しは少し強いが微風あり、静か。まるで天国にいるような心地よいひと時。ゆっくりまどろみ、来た草原笹路をアップダウンし下り、樹林帯を確認しながら尾根道に戻る。

○7/27(土)28(日)岡山南3山(1山)、岡山北2山

○7/27「立石山」9:00~11:05(2:05)晴れ 白石島旅客船船着き場より往復。瀬戸内海笠岡からの船で上陸。街中を縫うように歩き、お寺を目指す。そこからの遊歩道を辿り稜線分岐。左へアップダウンしながら進み、大岩群の立石山山頂。無理やり大岩の上に登る。島々・海の眺めがよい。海風が心地よい。下りに岩を後ろ向きに少し飛び別の大岩に着地したが、右膝を岩に打ち付けズボン少し破れ、膝から出血。ズボンを捲り、そのまま、ゆっくり稜線を元の分岐に戻り西へ登り返して進むと(応神山)山頂。二等三角点、玉のような汗をかき、笠岡の街、海岸線、海と青空を楽しむ。分岐に戻り、船着き場に戻る。バンドエイドを買い右膝頭を応急処置し、次の島へ。

○「阿弥陀山」山の神 山頂 13:00「城山」同 13:55 12:35~14:35(2:00)真鍋島本浦港より往復。街の中を縫うように進み、お寺からの道に合流。コンクリ道進み稜線末端。所々、草刈りされ助けられつつ、稜線を進むと阿弥陀山山頂。一等三角点、樹林の中の岡の山頂、樹間より海が見える。祠を参拝。先へと石仏を頼りに進むが道不明になり、稜線目安に、東へ。下ると道で会い、再び稜線に登ると草丈が覆う稜線。かろうじて案内板確認、草を分けて進む。あまり歩かれてないのか、この時期草が伸び放題なのか不明だが、縦走路を北東へと進む。分岐で確認しながら進み、真鍋城跡経て下り、城跡展望台の分岐よりコンクリ道進む。背丈以上の笹道を下のコンクリ道を確認しながら分けて進む。階段を登ると城山山頂。三角点、東屋あり、広場の山頂で、海等の眺めと夏風を楽しみ、来た縦走路を本浦港への分岐まで戻り下山。暑い中での山歩きで両膝共少し痛み、体力もバテ気味。船で笠岡に戻る。

○「常山」18:40~19:00(0:20)車で林舗道進み、電波塔・階段口に駐車し往復。階段道を城跡の史跡を確認しながら登り進むと常山山頂。三角点、展望台ある城跡の山頂。セミ・鳥の声聞きながら展望台より、山々・街の眺め楽しみ、戻る。

○7/28「桜尾山」5:35~9:30(3:55)通行止めの物見峠近くより往復。道不明で、急坂を慎重に登り、尾根。境界標頼りに尾根を北・西へと進む。大雨で土砂崩れの物見峠の先の鳥取県側の崩壊状態を確認しながら進む。幾つもの尾根の合流点あり、慎重に来た道をわかるように木の枝等使い前に進んでいく。時折藪に近い道を通り、雲で視界が限られる中進む。1Pよりなだらかに下り、急坂・倒木地帯を経て小藪の道を進んでいくと何とか桜尾山山頂 7:30。樹林中、表示板、三角点、反射板のある丘の山頂で、雲で視界今一つ。来た道辿り、下るが途中でかなりの倒木地帯に出くわし、下るとそのままの下りで、道間違いに気づき、急坂を汗をかきつつ元の道に戻り、木の枝で間違い地点を確認し、慎重に下る。随分奥まで入ったのだと気づく程の長い尾根歩きをして、崩壊現場を見下ろす尾根に出て、急坂下り無事戻る。

○「波多の台：黒岩高原」10:05~15:05(5:00)布滝駐車場より往復。布滝を見て、遊歩道進み、林道と合流。旧ゲート経て、電柱が傍を通る林道を進んでいく。黒岩高原の沢の音、山々を眺めながら淡々と林道を進み、測候所経て奥に進むと旧電波塔の広い跡地 12:05。脇のピンクテープ辿るも先が不明で行ったり来たりで、地図を確認し、北へ下ってゆく。鞍部より笹藪となり、ピンクテープ、獣道らしきを辿り、尾根を登ってゆく。途中から本格笹藪となり、体全体を使っても、前へ進むのに苦勞。獣道の中腰で、笹と格闘しながら、上へ上へとゆっくり進む。少し明るくなり、先を開いてゆくと反射板2つのある波多の台山頂 13:00。刈払いされた丘の山頂。曇りの中、山々の眺めあり、セミ・小鳥・風のハーモニーが心を癒す。周囲を散策し、獣道より、藪の薄いところを慎重に下ってゆく。笹で滑る中、鞍部に出て、笹のない道を登り返し、旧施設跡地で安堵し一休み。黒岩高原の森・小川・湧き水を楽しみながら林道を歩き、布滝の上部の小滝を眺めながら無事駐車場に戻る。駐車場では、観光客が何組かいて挨拶。

◎7/20(土)皆様のお陰で、遂に 3000 名山目を踏破できました。改めてお読み戴いている皆様に感謝と御礼を申し上げます。

○7/20 香川小豆島2山(2山)曇り

○「星ヶ城山」9:30~10:55(1:25)星ヶ城園地駐車場より往復。整備された遊歩道を進むと程なく星ヶ城山山頂(東峰)3000 名山達成、思わず万歳 9:40。烽火台跡等史跡のある広場の山頂。一等三角点あり、雲で視界なく残念。史跡のある稜線を進み、西峰。さらに神社経て階段道下る。途中登山者に挨拶。淡々と階段を下り、整備された広場の(三笠山)山頂 10:20。三角点あり、広い丘の公園の山頂。階段道戻り分岐より園地駐車場に戻る。

○「碁石山」11:45~13:10(1:25)小豆島2番札所の寺の駐車場より往復。整備された霊場の階段道進み、岩場の社を経て奥に進む。樹林帯を進むと、行者尾根分岐。北へ稜線進むと1Pとなり、先の道不明。少し戻るとテープあり、左へ少し下り進むと碁石山山頂 12:20。樹林の中のピークで、三角点あり。曇りで風あり、視界はなし。来た道を分岐まで戻り近くの山を散策するが不明で分岐より来た尾根へ。岩場を慎重に下って戻る。

○(洞雲山)13:15~14:40(1:25)先程探して諦めた別の山が気になり1番札所洞雲山入り口の駐車場より往復。舗道進み、札所を参拝(夏至に見れる岩の観音が有名)して、舗道を奥に進むと、神社の参拝道あり、その道を登り、神社入り口を通過し尾根に出る。急坂をテープ等目安に登り進む。岩稜帯となり、幾つものピーク経て奥に進むと道なく、戻る。途中右側にテープ案内あり、下り登り返すと先程の碁石山の分岐近く散策したところに出会う。再び戻り登り返して稜線。大岩、祠のある岩稜群が(洞雲山)の山頂。白い岩々の山頂で、北側は岩の絶壁。雲で視界今一つ。来た岩場道・急坂を慎重に戻り、神社に参拝して戻る。台風の影響で帰りの姫路へのフェリーは、やや揺れる。姫路から岡山方面に車を走らせたが雨が降り出して今回はここまで。

○7/12(金)休み 13(土)鳥取西2山、岡山北4山(1山)で遂に2999山。3千名山にあと一つ。3000 名山目予定は、最後に記載します。

○7/12「宝仏山」8:15~11:45(3:30)公民館登山口より往復。澄んだ沢・植林地進み、林道横切り登山口。少し草を分けて進む。合目表示・高度表示に助けられ、植林地等を進む。久しぶりの長丁場で、急坂、踊り場、急坂経て稜線。二等三角点、大岩ピーク経て奥へ進むと宝仏山山頂 10:15。ブナ樹林等の平坦な山頂。曇りながら山々の眺め良い。大山が雲隠れで残念。虫多く、すぐ下山。緑の森を楽しみつつ戻る。

○「船通山」14:00~16:00(2:00)登山口駐車場より往復。コンクリ舗道の坂を登り進み、終点東屋の先が登山道分岐で健脚コースを往復。沢沿いに道を進むと天狗岩、金明水。喉を潤し登ってゆくと別コースと合流し、云われのあるイチイの木群。階段を登り進むと船通山山頂。二等三角点、芝の広い公園の山頂。祠あり、ヤマタノオロチの剣出顯地の碑あり。曇りで視界なし。来た道を確認しながら、金明水楽しみ戻る。

○7/13「笠杖山」5:15~7:50(2:35)登山口表示目印のある林道口より往復。林道を進み、トレランと業者の方の案内表示に助けられ林道分岐を間違えずに高度を上げて行き登山口。つづら折れの道を辿り、尾根。急坂、踊り場、急坂を繰り返して高度を上げてゆく。なだらかになり図根点のあるところが、笠杖山山頂。先へと進み、ピンクテープの分岐の先に三角点あり 6:35。樹林の中の平坦な山頂で、視界今一つ。立派なブナ林楽しみ、下山。森歩きを楽しみ、急坂は慎重に下り、登山口。林道を軽快に歩いて戻る。

○「雄山」山頂 10:40「雌山」9:50 9:00~11:55(2:55)林道途中に駐車し往復。砂利林道進み、分岐を直進し削られた林道を見ながら、進んでいく。樹林帯に入り旧林道を進み、途中より左

に入り進むとようやく登山口。植林地のつづら折れ道登り、最近歩かれてないのか、笹、草を分けて、草梅雨にズボンを濡らしながら進み、雌山山頂。三角点あり、樹林の中のピーク。雨降り出し上に雨具付けて稜線を案内表示板に助けられながら進む。いくつかのピークを経て、笹藪を幾度かかき分け、ズボンを濡らしながら進む。山頂手前は、背丈以上の笹藪で、下の地道頼りに両手でかき分け進むと雄山山頂。二等三角点、刈り払いされた平坦な山頂。曇りで、山々が雲間から見える。一休みし、小鳥の声を聴き、シモツケソウ、トラノオの花を楽しみ、下山。下りの笹藪は、淡々と進む。途中の笹藪には、巻道あるようであり人が入る山ではない様子。稜線途中より雨が降り出し、雌山経て下りは、慎重に道を辿る。倒木に引っ掛けて危うくこけそうに。登山口に戻り、林道を只管下って雨の中戻る。

○「星山」(前山)16:05~17:40(1:35)西登山口より往復。雨降り止まず、待機したが、やまないため、止む無く雨衣付け出発。沢沿いの刈り払いされた道から植林地経て進むと東口ルートと合流。急坂を黙々と登り進む。笹等刈り払い整備された道を進むと星山山頂 16:45。一等三角点、方位盤ある芝の平坦な山頂小鳥の声あり、雨が本降りで見界なし。来た道を滑らないように慎重に下り鞍部分岐。先に前山あり、登り返して東登山口方向へ、トラバース道進むと立派な山方向表示のある分岐。整備された道を進むと奥に(前山)山頂。大岩・樹林のピークで、周りの森の景観楽しむ。分岐に戻り、鞍部に下り、南へ来た道をゆっくり下り登山口に戻る。これで何とか、3千名山目にあと1山に漕ぎ付け大安堵。

○100名山、200名山、300名山と登り(H14年7月)次の目標がない中、人のつながりで知った4000名山をH20年11月より始動。分厚い「新日本山岳誌」の山の多さに驚きつつ4000名山歩きを始めて11年。この3000名山目が、何とか足跡として残せる最後かもと弱気な面もあり。でも既に四千名山目は、北海道札幌市郊外の山と決めて、取ってあると云う大胆さ。何とも不思議なもの。

◎7月20日(土)3千名山目歩き実施。山は、小豆島の星ヶ城山。次いで碁石山(3001山目)登山。梅雨が明けませんが、フェリー欠航、台風等悪天候以外、雨でも実施。

7月20日(土)は、姫路港より始発の7:15発、小豆島福田港8:55着に車で乗船。星ヶ城山を午前中歩き、午後に碁石山を歩き、最終フェリー 福田港 19:30発 姫路港 21:10着で(予約済み)行動予定。弾丸旅行みたいな山歩きです。

◎ご参加可能な方は、星ヶ城山だけでもどうぞ。愛車は4名までは乗車可能。お帰りは、ご自由に。

○7/5(金)休み~7/7(日)岡山北3山、鳥取西2山、島根東8山(4山)

これで2992山3000名山まであと8山。台風・大雨等なければ、予定どおり7/20(土)小豆島の2山(星ヶ城山、碁石山)で3千名山目を目指す(姫路より朝一番のフェリーに車で乗船し小豆島福田港より夕方最終便で姫路に戻るフェリーを予約済。天候によりますが、ご同行いただける方大歓迎)

○7/5「三日月山」山頂 7:15「剣山」同 8:15 6:35~8:55(2:20)明地トンネル南側の登山口より往復。曇りのち晴れ 林道進み、山表示より左に入りすぐ分岐。左へ踏み跡を辿る。急坂の細い道を進み、稜線のピークが三日月山山頂。樹林の中の山頂、陽光あり、山々の眺めも、小鳥の音楽し。急坂を慎重に下り分岐より東へ。進むと遊歩道の本道に出会い、休憩所・分岐等経て剣山山頂。方位盤あり、芝の平坦な山頂。山々・集落・ユリ等の眺め楽しむ。来た道に戻る。

○「明石山」9:25~10:35(1:10)桑平峠口より往復。地元の方の案内板を頼りに旧林道進み

すぐ登山口。坂を進み尾根。植林地の道を少し進むと急坂となり、境界標、テープ等頼りにゆっくりと高度を上げてゆく。なだらかとなり稜線末端。ここからは、南へと笹・草等の小藪分けて進むとすぐ明石山山頂 10:00。三角点あり、樹林の中の稜線のピークで、西側に山々・集落の展望あり。来た道を確認しながら戻る。

○「大倉山」10:50~13:10(2:20)舗装の林道が、大雨等で浪打ち普通車で通行不可のため、枝林道手前より往復。舗道に大きな段差あり、砂利林道は雨によりかなり削られた道を進む。樹林の中、案内表示等に助けられ、作業道を辿って進む。小滝経て左に進んでいくとやっと登山口 11:50。植林地のつづら折れの道を経て尾根伝いに高度上げ、細い急坂を小径木を分け進むと大倉山山頂 12:25。二等三角点。芝草の平坦な山頂。山々・集落の眺め良い。夏グミ、かしの木を楽しみ、来た道を確認しながら戻る。

○「猿隠山」15:10~16:30(1:20)砺波峠より往復。整備された遊歩道の道をいくつかピーク経て猿隠山山頂。三角点あり、刈払いされた平坦な山頂で、北側の山々・集落の眺め良い。森林浴楽しみながら戻る。

○「京羅木山」18:20~19:35(1:15)林道ゲート手前より往復。広い林道を進む(タヌキの後ろ姿確認)。林道終点より階段道を進むと京羅木山山頂。二等三角点あり、史跡のある、広場の山頂で、雲で視界なし。急ぎ足で明るいうちに戻る。

○7/6「天狗山」5:15~7:25(2:10)入り口の広い駐車場より往復。砂利林道を淡々と進み登山口 5:40。源流・磐座の史跡経て進むと稜線。急坂経て天狗山山頂 6:20。丘の平坦な山頂。雲で北側の視界なし。草露の中、来た道確認しながら戻る。

○「清久山」8:30~10:10(1:40)一等三角点の説明のある登山口より往復。草が生え、わかりにくい登山道を木道経て進み、竹林のつづら折れの道を登り進む。尾根を進み、急坂階段道経て清久山山頂。一等三角点、整備された丘の山頂で北側の山々、街の眺め良い。心地よい晴天で、風・小鳥の声楽しむ。来た道戻る。途中地元の方に会い山話。

○「仏経山」12:05~13:50(1:45)無線舗道ゲート口より往復。登山口探す前に近くの(城名樋山:1:10~35、史跡のある広場の山頂・街・山々の眺め良い)を散策。暑い日差しの中、距離・高度を印した黄色い標柱を頼りに黙々と進み、電波塔。工事中で、奥の奥宮の跡を経て小藪分けて小高い仏経山山頂 12:55。二等三角点、樹林・笹の中の平坦な山頂で視界は空。近くの電波塔に寄り、整備された登山道を確認。その帰りに反射板より、山々・平野の眺め楽しみ戻る。

○「旅伏山」15:10~18:20(3:10)康国寺口より中国自然歩道を往復。暑さでバテてスロースタート。階段道を苦勞しながら登り進み、鳥居で一休み。なだらかな道を淡々と進み、芝生広場の旅伏山山頂 16:15。一休み。先に三角点・山塊の最高点ある様子で、階段道を下り登りし2P経て三角点。その先へと進むと遊歩道のすぐ近くに夥しいテープ群。そこが、最高点の(畑谷山)山頂 16:45。樹林の中の平坦な山頂。来た道戻り、旅伏山の砲台跡のピークを確認し間違った方向に下山し引き返す(20分以上時間・体力ロス)。跡に戻り、方向・テープを再確認し下り、神社を参拝して戻る。

○7/7「弥山」4:35~6:50(2:15)みせん広場より往復。子安寺脇の獣ゲートより入り、横に進み別ルートと合流し進むと登山口。崩れつつあるつづら折れの道を進み尾根稜線。岩々等の道を登り進むと弥山山頂 5:45。参拝し、日本海、海岸線、出雲平野の眺め楽しむ。先の三角点まで足を延ばして確認し来た道戻る。途中トレランの若者2人に挨拶して戻る。広場では、地元の登山者を見かける。

○「高尾山」7:25~9:35(2:10)R23 沿いの登山口より往復、地元の方に教えてもらい、ケモノ

ゲート経て進み峠で別ルートと合流。巡視路道を辿り、分岐より山道へ。山腹のトラバース道をコケモモの実を楽しみつつ進む。尾根に出て進むと遺構跡が出て間もなく、高尾山山頂。海軍の砲台跡が山頂。灯台・海岸線・山々の眺め良い。曇り時々晴れ、小鳥の声楽し。来た道戻る

○「鼻高山」10:30~15:20(4:50) 霊山寺公園駐車場より往復。車で少し上まで上がったので、そこから出発。寺の修復工事の方に山を聞くと登山口は幾つかあるとの微妙な返事。コンクリ急坂登り進み、最終民家で犬に吠えられつつ、獣ゲート明けて道を辿るとみせん広場からの自然歩道と合流。階段道を淡々と進み遥堪峠 11:20。ここで初めて位置を知る。西へ少しで山あり、そちらへ向かう。いくつかピーク経て進み、支線を登り進むと(万ヶ丸山)山頂 11:45。晴れ、樹林の中の山頂で、山々の眺めあり(古名:佛頭山)。稜線を遥堪峠に戻り、目的の東へ稜線を進む。ピーク毎に山名標識あり。大黒山経て進むと(天臥峰)古名か。奥にも山の案内あり。樹林の中の1P。急坂下ると登りの人に挨拶。今日、旅伏山から弥山まで北山縦走道を歩くとのことで若さに脱帽。下り進むと広い空間の樹林の広場に出て感激。中の小峰表示P経て進むと目安の4差路の矢尾峠。本来はここに直接登る予定が…。アップダウンし急坂登ると鼻高山山頂 13:20。地元のトレランの方に挨拶し山話。一等三角点のある平坦な広い山頂。出雲平野、宍道湖、川、山々の眺め良い。来た道を矢尾峠、遥堪峠経て戻る。この三日間天候に恵まれ大満足の山歩き。

○6/29(土)島根東4山 6/30は雨天休止 これで2975山。3千名山にあと25山。

○6/29 曇り後雨「枕木山」9:15~10:05(0:50) 華蔵寺奥の広い駐車場より往復。車進入禁止の舗道を進む。2つの電波塔を散策し、電波塔脇の最高点を確認。両方とも樹林の中で視界今一つ。時折日が差す中戻る。

「嵩山」10:35~11:45(1:10) 鳥打峠駐車場より遊歩道を往復。駐車場も一杯の人気の山。整備され、歩く人で固められた歩道を下山者に挨拶しつつ、距離表示に助けられ、淡々と登る。いくつかの休憩ベンチ経て別ルートと合流し進むと東屋の展望台。さらに神社を経て嵩山山頂。広い平坦な山頂で、石碑あり。海・街・山々の眺め良い。蒸し暑いが、一休みし固められた坂道を滑らないように慎重に戻る。

「朝日山」12:35~14:30(1:55) モデル登山道より往復。駐車場より沢沿いに舗道進むと堰堤で先は道が不明ながら踏み跡らしき辿るが、枝道等不明。止む無く方向を定め、急斜面にとりつく。獣道らしきを辿り上へ上へ。本道に出会い、淡々と尾根道を進む。さらに成相寺ルート表示が出て、整備された中国自然歩道と合流。階段道等進み分岐を右へ。地蔵拝みながら進み、1P。階段を下り、上り返して進むと西の峰山頂(最高点)13:25。小雨降り出す。展望台より東の峰等山々の眺めあり。来た道戻り、1P分岐より右へ進み、地蔵を拝み進む。程なく、朝日寺に出て参拝し、階段等経て朝日山山頂 13:55(東の峰)。一等三角点、芝・ベンチのある平坦な山頂。西の峰・山々・湖・街・海の眺めがあり、小雨ながら大満足。地蔵道経て、分岐より元の成相寺コースに下る。そのまま、登山道を下って、水路コンクリ橋経て草で見分けつかない道を分けて無事車を止めた駐車場に戻る。雨は一時上がった。

○「八雲山」15:50~16:20(0:30) 雨 広い北側の駐車場より往復。雨本降りだが、距離短いため山歩き。整備された道を進み、別ルートと合流し手摺りのある尾根道をゆっくり進む。施設の建物経て登ると八雲山山頂。三角点あり、平坦な広場の山頂。雨本降り、近くを散策して来た道戻る。時折、大雨の降る災害の起きそうな不順な天候のため、今回はここまで。

○6/23(土)24(日)鳥取西6山、島根東1山、岡山北1山これで2971山。

3千名山まであと29山。

○6/23 曇り時々雨「鬼住山」10:55~11:20(0:25) 山頂駐車場より往復。雨が降ったりやんだ

りの天候の中、整備された階段道を登ると間もなく、鬼住山山頂 11:05。公園・東屋・電波塔のある平坦な山頂。三角点あり。雲で視界今一つ。ホタルブクロの白い花を鑑賞して戻る。

○「手間要害山」12:35～13:55(1:20)ため池脇の広い駐車場より往復。用水路コンクリ橋越えて進むと登山口。トレッキングコースで雲間より山を望みつつ、上へ上へと尾根を登り進むと手間要害山山頂。三角点あり、旧鳥居・史跡の残る丘の平坦な山頂。来た道戻る。

○「安田要害山」14:25～15:40(1:15)長台寺口より往復。寺を参拝し奥の登山口より往復。地蔵の番号等目安に整備された道を進み安田要害山山頂。一等三角点ある平坦な公園・遺構のある山頂。尼子十砦の1つ。小雨ながら、山々・街・海の眺めあり。来た道を軽快に戻る。

○「金華山」16:30～17:30(1:00)鳥居のある登山口より往復。小雨の中、草に濡れるのを心配し雨具を付け、伐採後の開けた斜面を登り進む。樹林帯に入ると鳥居などを巡る道となり岩々の道、門を経て進むと金華山山頂。神社あり拜む。雨本降りに。大岩の絶壁等散策し、珍しい凝灰角礫岩等を確認。下りは、雨で滑りやすく慎重に戻る。

○6/23 晴れ時々曇り「鎌倉山」5:05～6:55(1:50)こもれび広場より往復。コンクリ道経て登山口。距離表示等に助けられ整備された道を植林地から樹林帯へと淡々と進む。旧城跡表示経て急斜面のトバース道経て、急坂登ると鎌倉山山頂 5:55。樹林の中の平坦な山頂で三角点あり。北側が開けて朝日、山々、街・青空が清々しい。小鳥の元気な声を聴きつつ、来た道を森を楽しみ、赤い野イチゴ楽しみながら戻る。

○「高畑山」8:50～10:20(1:30)晴れ、車で道を行きすぎて、近くの高畑山を探索へ。舗道・砂利林道先の伐採された広い土場から山を見て北東へ。道のない山。作業道を上へ上へと進み、ピンクテープより小藪入り。境界標の土塁らしきを辿るが間もなくなくなり、斜面尾根を方向を確認しながら、北方向へ。伐採植林地の尾根と合流し尾根を東に進んでいく。なだらかとなり、小藪分けて進むと高畑山山頂 9:40。樹林の中の小藪の山頂で、三角点以外何もなく、人の入った気配も乏しい。視界今一つ。来た尾根を確認しながら、合意地点。あとはただ方向だけを確認しつつ下り、明るい方向へ出ると入り口より下ではあったが無事作業道に出て安堵。心地よい天候を楽しみ戻る。

○「鬼林山」11:15～15:05(3:50)旧鬼林山林道の旧ゲート口より往復。林道進み別林道と合流し進むと広い舗装道。進むと分岐で右へと鬼林山の案内表示 11:35。車で来れたみたい。とりあえず舗道歩きで登り進む。峠分岐経て進むと黄イチゴが旬で食べ放題。こんなに食べたのは久しぶり。あとは只管林舗道歩きで、可憐な小アジサイを眺めつつ、登り進む。鉄塔群が出て奥に進むと鬼林山山頂。二等三角点、芝の広場の平坦な山頂。山々の眺めあるが、次第に雲が湧き出しており、すぐ下山。小アジサイと帰りも黄イチゴに加え赤いイチゴも楽しみ、約 4 km超の大森林道の起点に戻り、来た林道辿り戻る。

○「花見山」16:25～17:40(1:15)スキー場管理道(舗道)終点より往復。キスゲ等の花々の咲くスキー場を脇に見て登り進むとリフト終点。あとは探勝道を進む。整備された階段等の道で、樹林の中を淡々と進む。アップダウン経て、長い階段直線道経て花見山山頂。一等三角点、東屋のある平坦な山頂。曇りで視界今一つながら小鳥の声、黄イチゴを楽しみ下山。スキー場に戻ると雲が晴れ、花々の季節を味わいつつ戻る。

○6/14(金)休み 6/15(土)鳥取北6山、岡山北1山(1山)これで 2963 山、
3千名山にあと 37 山

○6/4「皆ヶ山」8:55～12:05(3:10)蒜山高原キャンプ場口より往復。整備された快適な階段等の道を進んでいく。急坂経て 1P(二俣山)。風強いが、山々・街の眺め良い。一旦下り、急坂道

を上り返し、なだらかになり進むと皆ヶ山山頂。10 畳程の平坦な山頂。先は道ない。雲が垂れ込め、風も強いが、山々・街の展望あり。虫多いためすぐ下山。急坂を慎重に下り、上り返し二俣山。あとは、白ユリ、ブナ・ナラの樹林帯等を楽しみながら戻る。

○「打吹山」13:05～14:10(1:05)倉吉市役所駐車場口より往復。博物館の脇から神社経て、ピンクテープを辿り直登。支線道に出て上り進むと不明だった博物館からの道に合流し進むと間もなく打吹山山頂。城跡碑のある広い山頂で、樹林の中、山・街の眺めあり。周回して博物館経て戻る。

○「三徳山」15:50～17:55(2:05)投入堂で有名な三徳山は、登山事故多発で1人での登山を10年前より禁止の旨寺の住職代理のレスキュー兼務の方に諭され、止む無く、社の見える遙拝場所より拝み、山の裏手の最高点を目指す。神倉集落奥の林道へ進み、舗道終点に駐車し往復。林道の急坂を登り進み、終点より送電鉄塔の巡視路道を進む。湧き水楽しみ、植林地の中を淡々と進み鉄塔 NO125。小藪の急坂尾根を踏み跡辿りかき分け進むと、テープ等ある立派な尾根道。北へ北へ尾根を進み、急坂の笹を分けて進むと念願の三徳山山頂 17:00。二等三角点、樹林・笹藪の山頂で、小雨で風あり、視界一つ。来た道を急坂・藪等分けて鉄塔に戻り安堵。植林地・林道を淡々と下り戻る。

○「鉢伏山」18:45～19:00(0:15)山頂駐車場まで車で行き、展望台・電波塔等散策し、周囲の景観を楽しみ、雨本降りとなり戻る。

○6/15「羽衣石山」5:45～6:30(0:45)駐車場より自然歩道を歩き進むと間もなく羽衣石山山頂 6:05。城跡で、旧建物あり、街、海、山々の眺め良い。天女の羽衣石等散策して小雨の中戻る。

○「孝霊山」8:10～9:45(1:35)南側舗道口より、道のない北側へトライ。小雨で薄藪を探しながら上へ上へと右寄りに進んでいく。明るくなり、本道に合流 8:55。あとは本道を北へと進む。いくつかのピーク経て孝霊山山頂 9:05。二等三角点、芝の平坦な山頂。風あり、小雨で視界今一つ。来た本道から、道のない南側へ。右往左往しながら降りていく。車道に無事出て安堵。数百m戻り駐車地。下に雨具着けず、ズボンはびしょ濡れ。

○「猫山」12:30～14:40(2:10)登り残していた鳥取市近郊の山へ大移動。天候不順で猫山林道ゲート周囲を行ったり来たりし、雨小ぶりなので、林道終点までと下見出発。山の連なりから途中から上がり稜線を進めないか試案しトライするも、道続かず林舗道に戻る(0:20ロス)。雨が本降りに。下も雨具付け林道終点まで進む 13:25。ここから山頂は近いはずと少し戻り、岩の斜面の土・植生頼りに支尾根に。境界標あり、尾根を辿り、別尾根と合流しさらに小藪分けて進むと稜線道に合流。テープ等多い。後は、稜線道をいくつかピーク経て進み、右へ直角に折れて進むと猫山山頂 13:45。三角点あり、樹林の中の平坦な山頂。雨等で視界今一つ。来た道を確認しながら慎重に林舗道に戻り、本降りの雨の中、ズボンに雨が浸み込むのを感じながら、ゲート口駐車場に戻る。雷が鳴り、上下ともずぶ濡れで着替える。明日例会担当で今回はここまで。

○仮の仮で、3千名山目の小豆島の2山は、7/20(土)姫路経由のフェリーで日帰り往復の強行スケジュールを予定。それまで・当日も天候不順、山行困難の時はご容赦願います。山歩きが逐次進み次第 7/20 に向けて本格的に計画を立てていきます(遅いですがご勘弁を)。

○6/1(土)2(日)岡山北6山(1山)2955山 3千名山まであと45山。

○6/1「津黒山」8:35～9:50(1:15)中央登山口より往復。植林地の急坂道を進み・笹原経て津黒山山頂。二等三角点、周り笹原の丘の山頂。晴れて小鳥の声、朝日、山々の眺めを堪能。来た道を軽快に戻り、駐車地で登山者3名に挨拶。

○「霞ヶ仙」11:00~13:50(2:50)R56 線工事通行止め地点より往復。舗道進み、間もなく林道分岐(第一ゲート)。林道の木漏れ日楽しみながら第2ゲート経て進むと登山口 12:10。細幅階段の急坂経て平坦地。さらに急坂登ると霞ヶ仙山頂 12:30。二等三角点、丘の開けた山頂で、北東側の山々の眺め良い。来た道をショートカットしながら軽快に戻る。

○「大空山」13:55~17:30(3:35)のどろキャンプ場上の登山口より往復。植林地の整備された階段道をアップダウンしながら進み、丸太橋渡り、尾根を進む。中間点経て、つづら折れの道からトラバース道へ。途中学童連れファミリーの登山者に挨拶。縦走路に合流し北へ。いくつかピーク経て(山名を公募した)(富栄山)山頂 15:40。三角点あり、稜線の開けたピークで展望台より、山々の眺め楽しむ。縦走路を引き返し合流点より、下ってアップダウンして進むと大空山山頂 16:15。三角点あり、樹林の中の丘の山頂で南側の山の展望と小鳥の声を楽しむ。樹林の縦走路をゆっくり登りながら進み三差路分岐へ戻る。あとは来たトラバース道、つづら折れの道をブナ、ミズナラの原生林の森を確認・楽しみながら下る。静かな森と沢をゆっくり体感しながら戻る。

○6/2「山乗山」4:45~5:55(1:10)R445 滝駐車口の時間通行止め先へ進み、下和9号橋の上より尾根に取り付き往復。道のない山で、先人の縦走ルートの最短のルートにトライ。植林地の急坂の笹藪の少ないところを探し登ってゆく。急坂・早朝で息も整わず、ゆっくり方向・尾根合流点等確認しながら進む。獣道等経て小笹分け進むと山乗山山頂。図根標石あり。樹林の中の稜線のピークで、小笹の中の山頂。小鳥の声良く、静か。曇りで付近散策し、来た尾根ルートを確認しながら無事戻る。

○「入道山」6:35~8:45(2:10)町村境界峠より西へ境界尾根を往復。事前資料準備なく道路地図に記載した情報のみで歩く。ピンクテープと境界標頼りに尾根を進む。踏み跡あり、アップダウンしながら進む。笹の覆う道等を分けて進み、1P7:20。以外に順調にここまで来た。先へ稜線を辿り進むと本格笹藪。ただ先人の通り道あり、分けて進む。急坂経て進むとなんと広く刈り払いされた広場の入道山山頂 7:50。三角点あり、周りは笹と樹林の山頂で、南側の山々の眺め良い。一息入れ、来た道を笹覆いは分けて、淡々と下る。ブナ林の良さを眺めつつ、境界峠に無事戻り、安堵。

○「不溜山」10:10~14:45(4:35)林道富東谷線途中より往復。砂利林道を車で少し進むと崩壊で一般車では危険。堰堤脇の空きスペースに駐車し長い林道歩き。山の沢から川への土砂流出、林道も決る。植林地の大崩れが樹木・岩・砂利等で覆った林道を乗り越えて進み、四季桜(登山口まで5.2km 10:25)。川沿いに上流へと途中迂回しながら林道を進む。分岐では、山への表示板に助けられ進み、車通行危険の表示の平坦地。ここから徐々に登りとなり急坂林道を進んでいく。いくつかの林道ピーク経て進むとやっと不溜山登山口 12:15。樹林の中の道を進み、1Pより稜線を進むと、笹が覆う道となり分けて進む。平坦道となり、笹を少し分けて進むと不溜山山頂 12:25。三角点あり、刈り払いされた樹林・笹の中の平坦な広い山頂。曇りだが陽光あり、北に乗幸山見える。林道登山口に戻り、林道を先の乗幸山目指すが、登山口まであと4kmでは、体力・時間も難しくすぐ断念し下山へ。黙々と林道下り、途中ショーカットして沢を楽しみながら意外と順調に戻る。今回はここまで。

○5/25(土)26(日)鳥取西4山、岡山北4山 これ以て2948山・・3千山目にあと52山

○5/25「三平山」6:30~7:50(1:20)林道登山口より往復。この土日は夏の暑さになるため、早めにとつづら折れの道を進み、土塁遺構確認し汗かきながら、稜線進み三平山山頂。快晴で、大山等山々の360度のパノラマ楽しむ。平坦な丘の山頂。来た道を今日の暑さを感じながら、途中地元の方に挨拶し軽快に戻る。

「烏ヶ山」8:20~10:50(2:30)新小屋峠より往復。R45 登山口らしきに車2台あり、その脇に止めて往復。登山道らしきはわかるが、何も表示なく、只管、笹等分けて登ってゆく。急坂経て1P。ここでやっと山の表示が出て、来た道と先のルートを確認。尾根をアップダウンしながら進み、急坂・岩々経て2P。一旦下って急坂・岩場を慎重に登ると烏ヶ山山頂 9:35。大岩の集まる山頂で登山者多い。大山等山々の眺め良い。日差し心地よい。来た道を岩々・急坂を慎重に下る。帰りは多くの登山者に会い、人気の山を実感。ブナ林等緑陰を楽しみ戻る。

○「矢筈ヶ山」山頂 14:30「甲ヶ山」同 15:20 11:25~18:55(7:30)一向ヶ平キャンプ場より往復。大休峠まで中国自然歩道歩き(片道約5km)。林道進み、急坂階段下り、吊り橋を渡り、遺構等確認しながら広い道進むと大山滝。2段の滝を確認し先へと進み大休口で休憩。まだ2Km以上ある。緩やかな道を進み、大休峠 13:45。避難小屋あり、下山者に山の状況を教えてもらう。ここから山入り。急坂進み1P。さらに奥へと進んでいくと矢筈ヶ山山頂。一等三角点、石・灌木の8畳程の平坦な山頂。大山等山々の展望良い。急坂下り、岩々等の道を登り返して小矢筈稜線の1P。先に岩峰の甲ヶ山が見える。ここから道ルート等が見える。急坂下り、鞍部より少し登るとトラバース道で右へ。岩の斜面に出て、赤ペンキを辿って、慎重にトラバースし斜めに登る。直下まで進み、直登で急坂を岩、木等に掴まりながら、上へ上へとゆっくり登ってゆく。最後の急坂経て甲ヶ山山頂。細長い稜線の一角の開けた岩々の平坦な山頂。大山、矢筈等の山々、海岸線、街の遠景を楽しむ。一休みし、急坂の岩場を慎重に赤ペンキを確認しながら下り、トラバースし鞍部に戻る。急坂を登り返し、小矢筈。岩々等の坂を慎重に下り、体力消耗のためか、登りが急で長く感じられる中、何とか矢筈ヶ山に戻る。あとは、来た道を淡々と下り、大休峠 16:55。宿泊者いる様子。後は自然歩道を淡々と歩く。沢水に助けられ、のどの渇きを癒し、ブナ林を楽しみながら、ゆっくりと下ってゆく。大山滝を再確認し、吊り橋も下に滝があることを確認。急坂階段登りは疲労のためか足取り重い。林道経てキャンプ地に戻るが、もう体が、クタクタの状態。

○5/26「擬宝珠山」4:30~5:30(1:00)開けた公園駐車場より登山コースをゆっくり登り進むと擬宝珠山山頂。周りが笹の開けた丘の山頂。朝日・風・小鳥の声を楽しむ。来た道をブナ林等確認しながら戻る。

○「朝鍋鷲ヶ山」山頂 7:00「金ヶ谷山」同 7:55「毛無山」同 10:30 6:20~14:45(8:25)林道朝鍋山登山口より縦走コースを往復。階段道を淡々とブナ・ナラ林を確認しながら登り進み、縦走コースと合流し左へ進むと間もなく朝鍋鷲ヶ山山頂。芝・笹原の広場の山頂。展望台より、大山等の山々、海岸線の眺めを楽しむ。奥へと縦走路を確認しながら進み、下っていくつかのピーク越える。ブナ林の良さに関心しながら進み、金ヶ谷山山頂。二等三角点、稜線上の1P。笹刈り払いされ感謝。先へと縦走道へトライ。途中1人の登山者に挨拶。毛無より朝鍋までの健脚な方。ブナ林の稜線をアップダウンしながら、縦走路を進む。途中ダムが見え、沢登のパーティーに会い、進むと(白馬山)山頂。南の岡山からの尾根道来た2人に挨拶。ブナ林の平坦な山頂。ここから登りで、山を下る方に日差し弱いので助かる旨挨拶し先へ。いくつかピーク経て鳥取俣野口からの道と合流し南へ稜線進むと毛無山山頂。先ほどあった2人の登山者に挨拶。三角点あり、大山等山々・海岸線・集落の眺め良い。周り小笹原の丘の山頂。晴れて日差しあり。ここから朝鍋まで片道7kmの長丁場。良く歩いてきたが戻らねば。来た稜線をブナ林に癒されながら進む。白馬まで若いグループと高校生グループ(男性)に会い挨拶。さらに縦走ルート進むと女子高校生グループにも合う。荷物も担ぎ、良い鍛錬の登山路の様子(トレランコースなのかよく整備されている)。ただ、私は、疲労と暑さで足が進まず、何とか朝鍋に辿り着くが、体力は、昨日の長丁場歩きと暑さの影響もあり、バテ気味。最後の下りの階段道もゆっくりゆっくり下るが、距離が長く感じ

られる。無事登山口に戻り、まだ時間はあるが、体力が限界のため、今回はここまで。

○5/18(土)19(日)鳥取南2山、岡山北4山 これで2939山 3千山目まであと61山
想定以上に山歩きに日数・時間がかかる気配がでてきた。

○5/18「箆山」7:50~10:20(2:30)中田登山道(林舗道終点口)を往復。整備された広い急坂
進み分岐を左へ。伐採後の灌木・萱の草原を縫うようにつづら折れの道を進み、急坂経て尾根
道と合流。尾根道をアップダウンしながら登って行き、別コースと合流。稜線もアップダウンながら
反射板等経て奥まで進むと箆山山頂9:10。三角点あり、丘の山頂で、曇り・風強いが山々の眺
め良い。来た道を淡々と景観確認しながら、2つ目の合流点に戻り、急坂下り、萱の草原は所所
ショートカットして一気に下り、最初の分岐。登山者2人に挨拶して一気に戻る。

○三国山 12:00~18:20(6:20)山王谷林道舗道終点の通行止(林道崩壊等)より往復。登山
口まで片道7km。往復18kmの林道山歩き。少し荒れている林道を進み高度を上げてゆく。営林
署の黄テープゲート等経て黙々と林道歩き。駐車地に車2台あり、どこで会うだろうと期待しなが
ら只管歩く。水平道となり進むと、旧小屋近くで、やっと大勢の人に会えた。8人のパーティーに挨
拶し登山道の状況等教えてもらい感謝。ようやく登山口13:50。階段急坂の道を淡々と登り進み
1P。トラバース道を笹を分けつつ、辿ってゆく。谷越え(2つ)は、岩壁を慎重にトラバースして一
気に下り登り返しの繰り返し。階段も最初は崩壊状態で慎重に。次は普通に歩いて、トラバース
経て鞍部。笹は気になるが、立派なブナ原生林である。道は、時折笹をかき分け進み、三国山北
峰山頂15:10。一等三角点、展望台あり。周り笹の平坦な山頂。風が強い。山々・街・海岸線の
眺め良い。来た道戻り、南峰を確認トライするも笹等藪で進めず、断念。谷越えを慎重に通過し、
ブナ林を楽しみながら登山口。あとは長い林道を黙々と歩いて、2つのゲート経て戻る。

○5/19「花知ヶ仙」5:15~7:50(2:35)遠藤林道・三ツ子林道途中より往復。砂利林道を何と
か普通車で入れるところまで行き、あとは林道歩き。大雨等でかなり削られた道を辿り進む。
所々土囊あり、修復は困難に近い削られ方している道を淡々と登り進み、登山口らしき場所。小
沢脇の道を登ってゆくと鞍部に初めて山案内の表示。整備された急坂の道をゆっくりと登り高度
を上げる。上へ進むと曇ってきた。緩やかになり進むと花知ヶ仙山頂6:10。二等三角点、樹林の
中の丘の山頂。曇りで風あり、視界今一つ。来た道を急坂は慎重に下り、林道に戻る。下る途中
太陽も顔を出し、淡々と戻る。駐車地で地元の作業車軽トラ2台に会う。

○「三十人ヶ仙」晴れ7:55~11:40(3:45)地元の高校演習林の林道より往復。林道進みすぐ
の分岐旧道を笹分けて進むが表示もなく、高度も上がらず、引き返す(1Hの時間・体力ロス)。林
道の演習林の表示札を左に見てさらに進み、天狗岩との分岐を右に。すぐゲートあり。小学校の
森林学習会の立て札が並ぶモデル植林地進み、コンクリ橋、堰堤経て、淡々と急な坂を案内に
従い登り進むと終点の登山口。階段の整備された急坂を辿り進むとT字の稜線分岐。右の山頂
へ。アップダウン繰り返し、笹を分けて進むと三十人ヶ仙山頂10:30。三角点あり、晴れ、風強い、
開かれた丘の山頂。久しぶりの青空で、山々の眺め良い。来た道を淡々と樹林・木漏れ陽を楽し
みながら戻る

○「角ヶ仙」12:20~14:40(2:20)旧キャンプ場口より往復。キャンプ場閉鎖され、案内が不明。
旧案内で炊事場の上の道らしき進むも表示なく、あとは山の方向を確認して、植林地の急坂をよ
じ登り、木を掴み尾根筋に調査杭見つけその杭を辿り上へ。合流点で枯れ枝の目印とする。さら
に境界が出てきた急坂尾根を登る。小藪経て階段の本道に合流。目印付け、上へ進む。幾つか
のピーク経て、鞍部より急坂を登り進むと角ヶ仙山頂13:40。下りの2人に挨拶。三角点あり、樹
林の中の丘の山頂。西側山々の展望良い。先の道不明につき、来た道戻る。1Pで先に下った2

人に挨拶し、すぐの階段道の途中より左に境界道を辿り、確認しつつ下る。合流点経て急坂を慎重に下る。下草のない植林地の急坂をトラバース気味に下り、元来たところに戻り、キャンプ地経て戻る。

○「泉山」15:10~16:55(1:45)笠菅峠は、マイクロバス占拠で止められず、やむを得ず荒れた林道を車で登り、登山口まで乗り付ける。階段急坂辿り、登ってゆくと大勢の下山者に会い挨拶しながら登らせてもらい通過。植林地、反射板、草原地帯経て、幾つかの山を越えて奥へと進む。後山に高さ比べして負けて大泣きした涙が泉のようだったと云われ案内を車で来る途中見かけ、成程と思う程、奥へと登ってゆき、泉山山頂 16:05。一等三角点、平坦な芝の広場・丘の山頂。曇り・風あり、先の縦走路等の山々の眺め良い。来た道を確認しながら淡々と下る。急坂は急ぎつつも慎重に下り、登山口に戻る。今回はここまで

○2日間共に万歩計で47千歩ずつ歩き、普通限界の40千歩を超えてクタクタ。左膝も悲鳴を挙げそう(疲労を抱えて)。

○4千名山一言メモ。歩く装備は？ 基本、車で駐車してのピストンなため、今は折り畳み収納できるサブザックで歩く。中味は、極力少なくと:カメラ(山頂1枚撮りのみ)、手袋(軍手)、藪用も、半袖のための手甲、ライト・替え電池、(ポッケに磁石・ズボンに鈴、手帳・シャープペン:記録は必須)笛、コップ、雨具・食料・水等最低限の装備で短時間で往復。

○5/11(土)鳥取南3山、岡山北1山 晴れ これで2933山 3千山にあと67山。

○「霧ガ峰」7:20~9:10(1:50)森林公園駐車場より往復。整備された遊歩道を六本杉経て奥ぶなの平より奥を目指す。直角の左折場所にテープあり、ここより身支度整えて笹藪入り。テープと踏み跡頼りに笹を分けて進む。程なく霧ガ峰山頂 8:15。三角点あり、笹の中の丘の山頂。青空・朝日・小鳥のさえずりのみで静か。来たルート確認しながら本道に戻り、笹とブナ林を楽しみながら下山。公園入口近くで大勢のハイカーに会い、人気のスポットであることを確認

○「高丸山」10:30~12:45(2:15)道のない山で、R116 大谷集落奥の鉄板橋作業道より往復。車で山の位置と方向を道路を行ったり来たりで確認し、作業道進む。崩壊地を経て三叉路を左折し進み、尾根に取り付こうと考えたところで、ピンクテープを確認。そこから踏み跡。テープ辿り、標。さらに奥へと北東の尾根へ。方向を北東に定め、境界・テープ頼りに上へ上へ登ってゆく。密集植林地で道不明となったが、方向を維持して、来たルート振り返りつつ尾根へ。急坂・大岩あり左から急斜面を上へと進み、稜線のテープあるところに出て、左へ進むと1P。ここが山頂かあたりを探ると北西にもピークあり、そちらへ向かう。一旦下り、急坂登り返し進むと高丸山山頂 11:40。三角点あり、山々・麓の集落の眺め良い。石のある丘のピークで晴天を楽しむ。一息入れ、来た道を1P経て急坂を慎重に下る。途中道間違いをしつつ、来たルートに戻り、作業道へ出て無事戻る。藪ではなかったが、何とか登れて満足。

○「若杉山」13:30~15:30(2:00)林道ゲート口より往復。車数台あり、つづら折れの林道を下山者に挨拶しつつ、ゆっくり進む。樹林が切れて広く明るい笹原・灌木の草原に出て、後はゆっくり登ってゆく。1段越えて先へ進むと若杉山山頂 14:30。三角点あり、丘の平坦な山頂で、大山・高丸山等の山々の眺め良い。心地よいそよ風の中、食事して、来た道を淡々と戻る。

○「仏ヶ仙」16:35~17:20(0:45)林道登山口より往復。植林地と落葉樹の間の急坂直登道を一気に登り、稜線。笹をかき分け進むと仏ヶ仙山頂。一等三角点・県境・中央分水嶺の三冠王の1つとの案内あり。平坦な樹林小笹の中の山頂で、北側は山々・集落の眺めがよい。来た道を一気に下る。明日車の点検・夏タイヤへの交換のため、今回はここまで。

○4千名山記一口メモ:山の歩き方は? 道路地図・山の本・ネット等で山の位置・登り口等確認し、準備不足の時もあるが、基本は現場に行き、山を見定めて歩く。全て初めての山なので、工程は、原則日帰りで登った道を確認しながら戻る。道迷いもザラにある。前回の徒労の山歩きの時もあり、すべてが真剣勝負のはずが…完璧に行くことは稀。

○10 連休(4/27~5/6)その4

○5/5(日)宮崎南2山(1山)晴れ

○「男鈴山」9:30~12:25(2:55)登山口分からず、道の駅の方に登山口を教えてもらい酒谷林道より伐採地近くまで何とか車で入り、林道歩き。少し登ると分岐で山名方向表示あり、左へ。伐採地道経て旧林道進むと三差路となり、女鈴山登山口 9:50。植林地の道をテープ等辿り、道を確認しながら進む。稜線尾根に出ると明るくなり、軽快に進み、草地を分けて進むと(女鈴山)山頂 10:30。平坦な広場の山頂で、山々の眺め良い。鈴嶽大明神、鈴嶽神社の云われの石碑あり。少し下り神社参拝し、林道に出て北に戻り、舗道進む途中より男鈴への案内より山入り。下り登り返して進むと男鈴山山頂 11:15。二等三角点、樹林の中広場の山頂。南側に山々見える。来た道辿り、舗道よりすぐ左のテープ道進むと女鈴山近くに出てすぐ山頂。あとは来た道を確認しながら植林地道を下り登山口。景観を確認しながら駐車地に戻る。

○「小松山」13:20~16:00(2:40)林舗道の登山口より往復。林道を登り進むと2人の登山者が休憩中で挨拶。林道を進み、旧登山道の急坂登ると上の林道に出て左へ行くとすぐ石原登山口(直登ルート)。車2台あり。急坂の道を淡々と登り、ヒノキ林の展望地。さらに登り進むとパラダイスの踊り場。地元の下山者に会い山話。紅葉がきれいなところでパラダイスとのこと。落部の急坂を登り進むと小松山山頂 15:00。二等三角点、丘の広い山頂で山々の眺め良い。来た道を落ち葉滑り楽しむように下り石原登山口。旧登山道も一気に下り、林道に出て散策しながら戻る。残る車は私の車だけであった。

○5/6(月)岡山北1山 曇りのち雨

「三国岳」9:45~11:50(2:05)R109 三室林道口より往復。天候が崩れる前にと林道進み、ゲート経て林道進むと左への案内表示。林道を左へ回り込むように進み登り進むと登山口(大きな石の表示あり)。植林地進み笹が覆う道を払いながら上へ上へと進む。何とか稜線に出ると今度はカミナリ。急ぎ足で稜線も笹をかき分け進むと三国岳山頂。笹・樹林の稜線のピークで山々の眺め良い。カミナリ続き、急ぎ足で下山。稜線をカミナリ気にしながら進み、下りは、一気に下り登山口。途中から雨となり、登山口で雨具をつけ、急ぎ足で林道歩き。カミナリは少し収まったが、雨は続き、一目散に駐車地まで戻る。天候不明で今回の10連休遠征はここまで。

○10 連休(4/27~5/6)その3

○5/3(金)宮崎西2山(1山)晴れ

○(大幡前山)5:55~12:10(6:15)車ゲート口を間違えて違う林道を奥まで進み、林道歩き。崩壊林道を右へテープを辿り、森を楽しみ進む。目印なくなり、尾根に取り付き上へ上へと急坂進む。なだらかとなりテープも出て進むと前大幡山山頂。間違った山に登ったことを実感。目指す矢岳の方角目指しつつ、テープ辿り下ると、登り口で挨拶した登山者に会い山話。それらしき峰を目指して沢を2つ以上越え進むが、茨とツツジの密藪に大きな深い沢が立ちはだかる。ツツジの密藪で先に進めず、断念し、登山ルートに何とか引き返し(2つ滝が見れた)でテープを辿る。崩壊した林道で道を間違えたことを確認しつつ戻る。沢歩き・谷・滝で人気のところみたいで車が3台増えていた。

○「矢岳」12:30~14:55(2:25)車止めの手前の広い駐車地より、下りてきた登山者に山情報

を教えてもらい、山入り。テープ等便りに進み、大きな谷に一気に下り、登り返して進むと矢岳山頂 13:35。三角点あり、晴れて日差し強い。平坦な山頂で、高千穂等山々の眺め良い。食事し、新緑・つつじを楽しみつつ来た道戻る。

○「鱈塚山」18:35~40(0:05)車で道を探しつつ、R340 先の山頂まで乗り入れ。一等三角点、夕日、山々の眺め良い、電波塔の間の山頂。

○5/4 鹿児島南3山 晴れ

○「野首嶽」6:50~7:25(0:35)北登山口より往復。整備された道を稜線の階段道進むと野首嶽山頂。一等三角点、朝日、小鳥のさえずり、そよ風、朝の山の雰囲気を楽しみ戻る。

○「稲尾岳」9:15~11:15(2:00)西登山口より往復。遊歩道経て登山口。沢歩きし源流経て樹林帯の視界の乏しい道を進み、稲尾岳・枯木岳山頂。二等三角点。樹林の中のピークで視界は青空のみ。来た道戻ると途中多くの登山者に挨拶。

○「甫与志岳」13:00~17:15(4:15)甫与志林道ゲートより往復。林道崩壊でゲートあり、止む無く林道歩き。沢沿いの道を淡々と進み、清純ノ滝口経て進むと林道終点が登山口 14:05。テープ等便りに植林地進み、滑りやすい急坂道登ると甫与志岳山頂。一等三角点、岩盤に大岩のある丘の山頂。山々の眺め良い。登りで2名の登山者に挨拶。来た道を急坂は、滑らないよう木等に掴まりつつ慎重に下り、後は、林道を散策しつつ戻る

○10 連休(4/27~5/6)その2

○4/30 熊本南3山「矢城山」6:10~7:50(1:40)石神登山口より往復。旧道辿り樹林帯経て舗道に出るとそこに登山口。鉄塔巡視路辿り進む。鉄塔経て横に横断するが道なく、止む無く北東側の山の方へ小藪分け進むと、伐採跡地。樹林境界へ進むと巡視路テープあり、急坂登り、テープ辿り進むと矢城山山頂。大きな岩がある丘の山頂。山々の眺めあり。小雨ですぐ来た道戻る。巡視路への道はテープあるも倒木で分かりにくい状況。鉄塔路・旧道確認しつつ戻る。

「大関山」10:30~45(0:15)R331 先の林道(頂上直下)分岐口より往復。林道進むと電波塔群。神社経て大関山山頂。二等三角点、電波塔の中の平坦な山頂で西南戦争ゆかりの地。散策して戻る。「国見山」13:40~14:35(0:55)県境界峠の先へ林道進み、カーゴ軌道始点の登山口より往復。小雨の中、テープ確認し広い急坂ガレバを獣道等辿り、上へ上へ進み、右の尾根に取り付き進むと稜線。テープ等辿り、岩の急坂経て国見山山頂。岩々のピークで樹林の中の山頂 13:55。稜線の先・後を散策して戻る。

○この後。16:50 偵察の軽い気持ちで鬼岳を目指したが、肝心の鬼岳林道見いだせず、間違った作業道・林道を行ったり来たり。小藪の中に三角点を見出した 18:00(近くに牧場あり)が、戻る林道も暗くなり、見いだせず、彷徨。林道・伐採地等行ったり来たりで、最後は、とりあえず林道を下ることだけ考え、一心に下ると人家出て安堵 22:30。ただ現在地不明で探し回ると一昨日下見したあたり。すでに令和となり、犬に吠えられつつもR188 から東を目指し進む。夜が明けても、舗道歩き。R268 に出て境界峠目指す。車で通った道を辿るが、遠い。11:40 車にようやく辿りつく。不眠の 30 キロ以上の歩きと靴擦れ(ピン付き長靴)で令和初日は散々な目に。休止。

○5/2(木)宮崎西2山 晴れ

○「甑岳」6:30~10:10(3:40)高原口より往復。昨日の足へのダメージでリハビリ歩き。硫黄山の通行禁止で遠回り。不動池登山口より樹林帯を下り急坂を登り返すと甑岳山頂。快晴、微風、韓国、硫黄等の山々の眺め良い平坦な山頂。来た道を庭園を散策するように楽しみ戻る。

「夷守岳」11:25~15:50(4:25)生駒登山口より往復。手前の旧登山口より登りはじめ。上の林道に出るが先にも前・後にもテープはあるが案内なく、止む無く直登で、植林地を獣道、尾根を辿り

上へ上へと登ってゆく。本道に出会い 12:15 安堵。急坂の道・段差・枯れ笹の道を淡々と進み、いくつかのピークを経て夷(ヒナ)守岳山頂 13:35。三角点あり、晴れて韓国等山々の眺め良い。周りが樹林・枯れ笹の平坦な山頂。来た急坂道を慎重に木等に掴まりながら下り、本来の登山口を確認し林道を右に下り進み。来たルートに出て戻る。

○10 連休(4/27~5/6)福岡・鹿児島・熊本・宮崎・岡山 23 山(4 山)これで 2929 山。

予定どおりには? その 1

○4/27(土)福岡中央2山 高速道事故渋滞のため高速を途中下車し山歩き。晴れ「鮎坂山:西山」12:25~14:30(2:05)飯塚ゲート口より往復。陸自ゲートは通行できず、手前の沢沿い・旧林道をテープ等目安に登り、最後は右の尾根へ急坂の獣道辿ると稜線に出て境界標・テープ等あり。幾つかピークを越え広い訓練場を右に見て稜線進むと鮎坂山山頂。一等三角点、芝の広場の山頂で、玄界灘・街の眺めよい。来た道を確認・散策しながら戻る。

○「犬鳴山」15:10~17:00(1:50)TN北口ゲートより往復。林舗道進み、三叉路を右へ(藤七谷)。沢沿いに進み、堰堤2つ越えた先の分岐を右へ。アップダウンして、ダムルートと合流して左へ進むと犬鳴山山頂。三角点あり、風あり、樹林の中の平坦な山頂、山々の眺めよい。下りは、西尾根コースへ。稜線をテープ目安にアップダウン繰り返し、最後は、かなりの急坂を木等に掴まり真剣に下り、合流点で緩やかとなり、沢歩き・林道経て戻る。

○4/28 鹿児島西5山(2 山)晴れ「金峰山」5:40~6:50(1:10)山頂下の駐車場より3ツ山上下り。北岳(5:45)急坂階段上下り。丘の山頂から朝日楽しむ。東岳(6:05)展望台より眺め楽しむ。金峰山山頂 6:20 二等三角点、海岸線・山々の眺め楽しむ。6名の参拝者に挨拶。下って神社に参拝し、使われていない西展望所経て戻る。

○「野間岳」8:10~9:15(1:05)神社Pより往復。神社参拝し、その奥の整備された登山道・階段道を淡々と登り、一等三角点経て大きな岩々の野間岳山頂。海・海岸線の眺めよい。風あり、来た道戻り、神社の清掃中の方・登山者2名に挨拶。

○「冠岳・西岳」11:30~12:10(0:40)三叉路口駐車地より往復。林舗道進むとすぐ登山口。階段の道登り、上の林道を横切り、天狗岩経て進むと西岳山頂。登山者数名おりに挨拶。二等三角点、平坦な山頂で神社あり、参拝し、海・山々の眺め楽しみ戻る。

○「八重山」13:40~15:00(1:20)公園上の登山口より往復。整備され道を進み、一等三角点経て八重山山頂。山々・海の眺めあり、来た道も戻る。

○「片城山」15:40~17:00(1:20)イムタ池回りの林舗道口より往復。案内図で方向を確認し、竹林地帯経て進むと稜線鞍部。右へ急坂等経て進むと片城山山頂 16:15。二等三角点ある、樹林の中の平坦な山頂。視界今一つ。来た道戻り鞍部より反対側の山へ登り進むと(山王岳)山頂。樹林の中の丘の山頂。鞍部に下り戻る。近くの外輪山の一つ(舟見岳)も登る。17:25~17:55(0:30)登山口より急坂階段道を往復。舟見岳山頂は、三角点あり、樹林の中の平坦な山頂で山々の眺めあり。

○4/29(月)鹿児島北2山、熊本南1山 曇りのち雨「烏帽子岳」曇り 6:10~7:25(1:15)林道途中、山表示ある駐車地より往復。林道進み三叉路経て進むと烏帽子岳山頂。一等三角点、始良市最高峰。丘の平坦な山頂で、桜島等の眺め良い。天気は下り傾向ですぐ下山。

○「紫尾山」9:20~30(0:10)車で山頂下まで。強風・雨の中散策。電波塔のある山頂。戻ると雨本降りに。

○「矢筈山」11:30~13:10(1:40)林道途中より往復。雨の中雨具付け出発。林道進み登山口。

分岐経て左の稜線・急坂(ロープあり)をゆっくり登り矢筈岳山頂 12:10。一等三角点、平坦な広場の山頂。雨ですぐ下山。分岐より左へ急坂登ると女岳山頂 12:40。樹林の中の山頂。すぐ下山。登山口に戻り、雨の中林道に戻る。

○4/19(金)~4/21(日)岡山北3山、鳥取南5山 1日休み取り。

これで2902山 三千名山にあと98山。

○4/19「滝山」8:00~13:10(5:10)声ヶ岬登山口より那岐山への縦走ルートを往復。(山の案内にあった自衛隊演習地を通る道は通行止めで使えず。)整備された道を辿り、展望台3カ所を経て三角点。さらにその先に(広戸山)山頂。大きな岩のある丘の山頂。そこから縦走コースを徐々に下り、登り返し、幾つかのピークを経て滝山山頂 10:35。一等三角点、展望台のある丘の山頂。雲で視界なく残念。風、小鳥の歌声のみで静か。来た道を気候の急変化に戸惑いつつも、黙々と進み、広戸山過ぎると雲も取れ、展望もあり、山桜・新緑を楽しみながら戻る。別方向への登山者あり。

○「穂見山」15:05~17:25(2:20)育種場先の穂見林道口よりすぐ右の林道より往復。準備不足で、別の山は峠が通行止めで行けず、こちらをトライ。旧林道進み、途中より右の枝林道の沢を経てすぐにピンクテープ2つあり、そこから小藪尾根歩き。両側の沢の音、先の山の連なり等確認しつつ進むと、旧作業道出合い。目印枝を置いて、右奥へと道を進むと終点。小沢あり、沢沿いに上り明るい開けたところに出て、木のあまりない北側の右奥の樹林のある急坂にとりつく。方向は北東方向を幾度も確認しつつ、急坂を木等に掴まりながら上へ上へとよじ登ってゆく。大岩等経てわかりにくいところは、来たルートを確認しつつ、ゆっくり進む。暫く登ると稜線の境界石が右に見え、左への稜線進むとすぐ穂見山山頂 16:20。奇跡的にジャストで到達。二等三角点、山表示板あり、広い丘の山頂。雲で視界なくすぐ下山。来た道を確認しながら急坂を慎重に下りていき、開けた沢より林道終点。さらに来た小藪尾根を経て旧林道に出て安堵。無事登山口に戻る。

○4/20「高山」山頂 6:25「高鉢山」同 11:30 5:45~14:20(8:35)高山登山口(林道通行止めゲート近く)より各往復。伐採作業道を案内表示に助けられ進む。寒気で土が締まり、潜った泥靴跡の心配もなく軽快に進み本当の登山口。笹のある稜線の急坂を淡々と登り進むと高山山頂。三角点あり、稜線上の平坦なピーク。笹・ブナ林・小鳥の声・朝日・沢の音が清々しい。来た道戻り駐車地 7:00。すぐにゲートより舗道歩き。崖崩壊地経て高山・五葉(長い)の2つのTN経てすぐ北に生き物のような見事な滝を確認。さらに舗道を進むと三滝源流・高山名水で喉を潤す。除雪され、寒さで凍った舗道を慎重に進む。除雪車・除雪終点経て残雪残る舗道を奥へと登ってゆく。鷲見岩経て進むと目安の中北TN東口 8:20。右寄り急坂取り付き上部に出ると夏道らしきもあり。右に進みピークより先は、笹を進めず。戻り道を探す。高度の表示板あり、そこから西へ小藪道を辿る。笹藪がすごく迂回しながら進むも展望開けず、南東方角に山の連なり確認。道間違いに気づき 9:20、再びトラバース、急坂残雪歩き等繰り返し、最初の稜線近くに出てピンクテープに会い安堵 10:00(1時間以上ロス)。30分ほどの体力・時間を消耗。あとは、稜線を南東へと小藪道、残雪拾いしながら進む。幾つかのピーク経て進む。藪の出ているピークあり、左へ巻いて先へと残雪求めて進む。さらに高度を上げつつ登り進むと念願の高鉢山山頂 11:30。ブナ・残雪・笹藪の平坦な山頂。晴天で高山等山々の眺め良く静か。来た道を確認しながら、残雪拾いしてゆっくり下ってゆく。いくつかピークを下り、来た時に舗道への残雪沢を下るところで果敢にトライ。残雪はさほど柔くなく、時折長靴滑りしながら一気に下り、小沢を超えて林舗道に戻る 12:55。後は来た道を淡々と下る。疲れで足取り重く、高山名水で一息して舗道に大の字に横たわる。2TN経て

ゲート口に無事戻る。

○「鷲峰山」15:55～19:00(3:05)安蔵森林公園口より往復。どれが山か不明なまま、トラバース道を上り下り。4差路に下り、山の方角を確認。中国自然歩道の急坂階段道を辿り、1P。さらに同様の急坂階段道をいくつか越えてゆく。ブナの原生林の見事な林を探訪しつつ、急坂登ると、平坦な道となり、最高点・二等三角点経て広場の展望台 17:25。山々の展望良い。来た道を急ぎ足で戻る。途中夕日を何度も拝みつつ、急ぎ足で下り4差路。トラバース道をアップダウンしながら森林公園のテントの沢山あるキャンプ場へ戻る。

○4/21 まっこう山(三原山)6:30～10:50(4:20)R117 終点の登山口より往復。手入れされた坂道を辿り、平坦な水平道を奥へと進んでいく。坂を登ると開けた萱の大地。テープに沿って植林地を進み、小沢経て、斜めに坂を登ってゆくと見事な植林地で最近間伐されたよう。奥へと進み沢より案内あり、辿って上流へ。残雪で道を途中で見失う。止む無く、藪の薄いところを探しつつ、上へ。沢の急坂を登り開けた樹林帯に出る 8:20。ただ上は、背丈以上の猛烈な笹藪。薄い所、鹿道、明るいとこを求めて上へ上へと焦らずゆっくり進む。藪の稜線を大笹をかき分け、かき分けて進む。北に出ると藪薄く、そのまま上へ進み笹トンネル潜ると待ってましたまっこう山山頂 9:00。二等三角点、笹の中の平坦な山頂。陽光が心地よい。南側に立派な道あり、その道を辿り、急坂下り、大笹のトンネル下ると八本越。後は、テープ目安に、残雪の沢へ下ってゆく。残雪・沢交互繰り返して間違い地点に。沢を登るべきだったが、残雪で道がわかりにくかった。後は、来た植林地経て広い萱の草原に出ると、なんと大勢の人が蝶の防鹿ネットを補修中で挨拶(10人衆)。日差しと森を楽しみつつ戻る。

○「伯州山」11:55～13:40(1:45)広い駐車場より往復。沢山の車・マイクロバスあり。人気の山。整備された林道進むとすぐ白いククザキイチゲの花を教えてもらう。遊歩道もあり、登山者多く、一目散に上を目指して、暑い日差しの中、汗をかきながら、登ってゆく。山荘経て、急坂登ると伯州山山頂 12:45。三角点あり、山々の眺めの良い平坦な山頂。数十人の登山者で大賑わい。来た道を沢・ブナ林を楽しみながら戻る。

○「人形仙」14:35～15:55(1:20)晴れ 登山口より往復。林道進み湿地帯分岐より西へ。途中家族の登山者に挨拶。急坂を一気に登るが、まだ上まだ上と続く。笹の仮払いされた広い道を稜線より進むと間もなく人形仙山頂。三角点あり、大笹の刈り払いされた平坦な山頂。山々の眺め良い。来た道を一気に戻る。今回はここまで。

○4千名山:一口メモ 開始のきっかけは? 100名山、200名山、300名山と登り(H14踏破)。しばらく山を嗜む程度でいたが、平成19年頃よりJAC関西支部の四国分水嶺歩きに誘われ参加。そこで4000山の横断幕と出会う。H20/8に松山から福島に転勤。H20/10四国分水嶺完了の発表会に徳島まで行き、分厚い「新日本山岳誌」の本を割安で頂き、その山の日本地図等をもたらす。その本などがきっかけとなり、H20年秋頃より本格的に4000名山歩きを開始。現在11年目でやっと3千名山を目前にしています。

○4/13(土)14(日)鳥取東4山

○4/13「陣鉢山」7:40～13:40(6:00)晴れ 小藪山で氷山命水のある林道通行止め地点より往復。気温0度の中、舗道進み桑ヶ峠。ゲートより稜線に沿って砂利林道進む。稜線に登り易い地点にテープあり、山入り。稜線に出て残雪のある、急坂を慎重に登り稜線を進むと間もなく(桑ヶ仙)山頂。樹林の中のピークで、晴天の中、山々の眺めあり。稜線の竹等の小藪をアップダウンして進み、(ナツラ山)山頂。樹林の中のピークで、陣鉢山の眺め良い。稜線進み、林道に降りて残雪道を進む。程なく切通しの登山口表示に到着。一息入れ、稜線尾根を目印テープ等確認し

ながら、登ってゆく。1P経て下り、残雪の急坂をゆっくり登り返して進むと陣鉢山山頂 10:25。杉・ブナの樹林の稜線ピークの山頂。積雪 50 cm位。快晴の中、沢の音、小鳥のさえずりが心地よい。天国のよう。一休みして来た稜線尾根を確認しつつ下り、小陣鉢山を探す。登山口に戻り、奥へ残雪の林道を少し潜りながら、北へ進む。目指す山の手前右側にテープあり、急坂ながら、道らしきを探し登ると稜線にテープあり。北へ進み、坂を登ると(小陣鉢山)山頂。三角点あり、樹林の中の丘の山頂で陣鉢山等の眺めあり。来た道戻り林道に出てあとは、残雪の林道歩き。少し潜りつつ、雪のないところを探し、アップダウンしながら、土砂崩壊、落石地等慎重に進み、桑ヶ峠を経て、氷山命水口ゲートに戻る。

○「伊呂宇山」(イロウ)15:40~17:20(1:40)曇り 林道大滝線の舗道終点口より往復。テープあり、急坂を辿ると、作業道。上へ上へと巡り進むと稜線近くで稜線に出て、テープ・境界表目安に東へ稜線の急坂登ると1P(地籍三角点)。赤布あり、いざなわれて稜線を東にアップダウンしながら進む。はるか先にピークありそうで、ゆっくり進むと伊呂宇山山頂。三角点あり、松等樹林の中の平坦な山頂で、山々の眺め、こぶしの白い花あり。来た道を淡々と戻り、作業道に出てショートカットで下り、駐車地に戻る。

○4/14「三角山」5:20~6:30(1:10)明るくなり、神社奥より遥拝所を経て急坂を一気に登る。今日は天気がいつ崩れるか不明で、急ぎ仙行者で一息。さらに急坂登り、用瀬アルプス分岐で朝日拝んで急坂を登ると三角山山頂。神社の奥社あり、天狗石・権現石等巨石ある山頂。山々・街の眺め良い。来た道を慎重に下り、ツツジ、こぶしの花の眺めを楽しみながら戻る。

○「洗足山」7:10~9:30(2:20)鳥居野登山口より登山届出して往復。曇りでいつ雨降るか不明。沢筋の道らしきをテープ等頼りに小沢を幾度か渡渉しつつ進む。表示板より南へ沢を進み、急坂のつづら折れの道をゆっくり高度を上げてゆく。細いトラバース道を慎重に登り進み、大きな広い尾根に出て、少し安堵。途中から小雨がパラつく。急坂をゆっくり登り進み、三角山からの縦走コースと合流し、稜線を登り進むと洗足山山頂。一等三角点、広場の山頂で、山々・街の眺め良い。小雨となり急ぎ奥の最高点まで行き 8:30、来た道を淡々と慎重に確認しながら戻る。細いトラバース道をゆっくり下り、沢筋に戻る。あとは、岩・木・根で滑らないよう気を付けつつ、沢・岩等の景観を楽しみつつ戻る。登山口も小雨で、今回はここまで。

○今回から「4千名山記一言メモ」を添えます。4千名山はどこから?・・「新日本山岳誌」という分厚い本に3千山近い山あり。明治に作成された本をリバイバルしたもので、北方4島・尖閣島の山も入っています。この本の約3千山に周囲の山登りを含めて4千名山です。4千名山記の「」印の山は、この本に載っている山で()の山は、それ以外の山です。従って全ての山が初めて登る山となります(同じ山は、重複カウントしません)。

○現在 2893 山で3千名山にあと 107 山。気は早いですが、カウントダウンの開始です。3千名山目は、小豆島の星ヶ城山と碁石山の2山登りを予定しています。どなたでも登り易そうな山で、ご参加大歓迎。目を離せない4千名山記にできればよいのですが・・・。

○4/6(土)7(日)鳥取東3山「伝説のハイカー編」復活

○4/6「くらます山」山頂 10:35「沖ノ山」同 17:35 晴れ 吉川 沖ノ山林道口より若杉峠東屋ビバーク。9:00~22:35(11:35)笹等の藪山を残雪期に一気に3山歩く。

○ヘンプ谷川林道を経て、林道進み、飽きた頃(9:30)にくらます登山口表示テープと案内あり、そこから東へ尾根を登る。次第に急坂となるも、木等に掴まりつつ登り進むと1Pの岩場。すぐに

稜線に出て、笹藪・残雪が現れ、北へ藪の薄いところ・残雪上を進むとくらす山山頂。笹と周りが樹林の残雪の丘の山頂。山々の眺めよく、沢の音・そよ風・晴天が心地よい。時間に余裕あり、先へとトライ。稜線を藪の薄いところ・残雪拾いして2P目の先はどう進むか思案していると何とこんな山に人が。反対方向から来た方で、挨拶して近くの山の状況等教えてもらい感謝。丁度、お話ししたところが(高倉)山頂。樹林の中、笹小藪の平坦な山頂。西へと稜線を下って林舗道に出て、先程の登山者の雪足跡を辿り、稜線の残雪を踏みしめ登り進むと(天児屋山)山頂。三角点あり、小笹の平坦な山頂。一息入れ先へ小笹・残雪稜線を進む。進んでいくと(三国平): 穴粟 50名山 NO12 で樹林の中の平坦な山頂。さらに進むと話に合った江波峠(14:20)でここから先は不明。案内ある若杉峠を目指す。残雪・稜線不明で、行ったり来たり、残雪を潜ったりで時間を費やしながらか林道に出る。地図で確認するも不確か。北へ林道進み、分岐を左に残雪に潜りながら林道・稜線進むとやつのことで若杉峠(15:50)。少し登ると、東屋と若杉自然歩道。残雪あるも、原生林の木の表示版を確認しつつ西へと進む。峠への分岐で自然歩道を離れ、はるか先に見える沖ノ山を目指す。稜線をアップダウンしながら進み、若杉の表示ポイントで雪の足跡に出会い元気が出て、下って、登り返す。ここかと思えばまた先と逃げ水のように山が続き、ようやく念願の沖ノ山山頂。夕日が綺麗で、1m程の残雪の平坦な山頂。小休止して急ぎ来た道戻る。若杉点経て峠への分岐に戻るとすでに暗くなりかけてライトを点ける(19:10)。ここからが試練となり、残雪尾根を行ったり来たりを繰り返す。止む無く再度分岐に戻り、峠への道を下り進む。見覚えのあり、歩道分岐に出て大丈夫かなと思ったが、先への道がまた不明で、沢筋まで下り、先が開けず再度、稜線に登り返し、また行ったり来たりが続き、軟雪に潜り、長靴に雪が入り、濡れてくる。止む無くショートスパッツを付け、雪入りを防ぐと余裕出てきたのか、思考が少し復活。稜線行き過ぎかと戻ると来た時見た木の案内板。方向を北、北東へと定めて確認しつつ、下り進むと何とか無事若杉峠上の案内板に辿りつき、東屋着(22:35)。疲労で動けず、雨具等すべて身に着け、ツェルトで覆い就寝。風の音が凄いが、横になりうつらうつらしながら休めた。

○4/7「東山」若杉峠東屋より半周回し吉川の沖ノ山林道口に戻る。5:40~14:30(8:50)晴れうつらうつらする中、目覚めると少し明るい。身支度整え出発。一気に残雪・急坂を慎重に下り、沢へ出て下ってゆくと林道・美作越登山口。少し北へ進むと芦津越登山口。残雪の階段道を残雪の潜りを避けながら登り進むと中国自然歩道分岐。疲れで足が進まずゆっくり北へと進むと間もなく(狩谷山)山頂。樹林の中の丘の山頂。稜線をアップダウンしながら進み、残雪が一面となり、サングラス付けて、登り進み、一気に下ると沖ノ山林道町境界。北へ横切り、少し行った左側の広い空き地の奥より山入り。急坂登り、途中、暑くなり、雨具外し半袖シャツで急坂をゆっくり登ってゆく。一面残雪の急坂を一気に進み、少し下って一休み。昨日に続き、2度目のオレンジシャーベットを楽しみ、ゆっくりと雪面坂を進み左側へ進むと遂に東山山頂。思わずバンザイ。三角点のある岩・小笹の平坦な山頂 10:20。山々の眺めよい。晴天で、キツツキの音も軽やか。来た道を一気に下り、林道出会い 11:10。帰りは、疲労もあり、残雪のある林道を潜りつつ、潜る残雪を避けながら下ってゆく。芦津越口に戻り(13:05)、林道を吉川集落へと川沿いに下り、林舗道に出て下ってゆき、集落に出て、舗道を登り返し無事駐車地に戻り、大安堵。久しぶり大強行軍で疲労困憊。今回はここまで。

○3/31(日)岡山西1山 晴れ「太平山」11:55~12:05(0:10)異動後最初の山。頂上直下まで車で行き、すぐ太平山山頂。一等三角点、平坦な丘の山頂で山々の眺め良い。風強い。電波塔の脇の山頂。その後、近くの虫原山の登山口探すも不明で、2度間違いで笹のピーク登る。2つ目のピークから北に谷を挟み虫原山見えたが、タイムアップで断念(17:25)。

○3/10(日)新日本山岳誌以外 福島北(1山)

(十万劫山)晴れ 6:35~9:05(2:30)花見山駐車場より往復。散策路経て花見山入り口より遊歩道進み花見山山頂。稜線を奥へと登り進み三叉路。東へと作業道を淡々と進み十万劫山山頂。三角点あり、平坦な広い山頂。吾妻・安達太良連峰の雪山の眺め良い。案内板に行基が地藏を祀るとあり。雷碑を拝み、来た道戻る。途中、バイク・トレランの人に挨拶し、分岐より花見山の下山口へ。登山者2組、観光客に挨拶してウッドチップの遊歩道散策を楽しみながら戻る。

○2/9~11 岡山中・南9山(3山)広島東5山(1山)計18山 その2

○2/11(月)広島東4山 曇り

○「黒滝山」山頂 8:10「白滝山」同 9:00 7:05~9:50(2:45)小泉登山口より周回。前夜雨から雪変わりうっすらの軟雪。舗道崩壊で上へ車で進めず、上の駐車場への案内と白滝山への尾根道登山口表示ありが道の両側にあり。とりあえず上の駐車場を目指す。案内を辿り、尾根道の急坂登ってゆくと1P。下っていくと立派な登山道に出会う。白滝・黒滝分岐。右へと黒滝に向かう。アップダウンし進み、直下より急坂の階段道登ると大きな岩々のピーク3つの黒滝山山頂。それぞれを確認して3つの観音を拝む。海・街の展望・岩峰の絶景を楽しむ。来た道戻り分岐より下り駐車場。街からの立派な舗道あり、車が入った道は崩壊で通行止め。舗道登り、すぐ急斜面の道に取り付き進む尾根道に合流して上へ。大岩経た上が黒滝山山頂。平坦な細長い山頂で、大権現の社を参拝し、鐘楼をつく。海・山の眺めあり。来た尾根道分岐より尾根を下り、いくつかの大岩を巻いて下り、鉄塔先の急階段を慎重に下って登山口に戻る。丁度登り支度の地元の方4名に出会い挨拶。

○「篁山」10:50~11:35(0:45)竹林寺展望の広場より往復。すぐ脇の尾根の道らしきを辿って縫うように尾根を進む。1Pを経て先へとテープ等頼りに進むと篁山山頂。樹林の中の平坦な山頂で視界今一つ。三重の塔跡の大仏の奥。来た道戻り1P(最高点?)も雲で視界なく来たルートに戻る。

○「観音山」13:35~15:45(2:10)瀬戸内海の生口島の山:しまなみ海道経て伊豆里トンネル西口より往復。作業道経て伊豆里峠。旧道尾根進み、階段の急坂経て稜線のいくつかのピーク経て進むと観音山山頂。平坦な樹林の中の山頂で、南側が開けているが、雲で視界なく残念。食事した下り坂を慎重に下り、樹木の回廊から出て、急坂階段道下る。伊豆里峠前の展望地より、海と島の眺めを楽しみ、戻る。

○大遠征の帰りを心配して今回はここまで。

○2/9~11 岡山中・南9山(3山)広島東5山(1山)計18山 その1

連休で休みも取り、広島まで大遠征(車で片道 1100 km)

○2/9 岡山南5山 ○「金山」11:05~11:20(0:15)曇り 電波塔ゲートより往復。電波塔奥が金山山頂。平坦な樹林の中の山頂。社参拝し戻る。

○「龍王山」12:15~12:30(0:15)晴れ 駐車場よりすぐ山頂。お寺で岡山市内の眺め良い。駐車場脇に三角点、離れたところに展望所あり。

○「八丈岩山」14:15~14:50(0:35)晴れ 園地駐車場より往復。整備された道辿り東屋分岐経て登ると八丈岩山山頂。少し下に大きな岩あり、眺めも良い。一等三角点ある平坦な山頂。陽光あり、海・山・街の眺め良い。帰路分岐より向かいの(三頂山:大岩のピークで祠拝む)に登り戻る。車で移動し近くの山(貝殻山:広場の三角点のある山頂)に登る(15:05~15)。

○「種松山」17:00~15(0:15)晴れ 手前の園地で間違っって蠟梅・梅の花見て山頂でないことに気づき、奥に移動し駐車場よりすぐ公園でその奥に種松山山頂。一等三角点、樹林の中の山

頂。夕陽キレイで北側に山々・街の展望あり。石垣の遺構確認して戻る。

○「鷺羽山」18:00～25(0:25)バス駐車場より往復。夕暮れとなり急ぎ階段登り、三角点経て奥に進み、石段登り鷺羽山山頂。大きな石積み・方位盤あり。瀬戸大橋・海・山々・街明かり・車のライト・細三日月が絶妙のハーモニーで夕暮れだったが冬風の中、至福の時。薄暗い中戻る

○2/10 岡山中・南4山、広島東1山 晴れ後曇り

○「鷺峰山」7:15～9:45(2:30)吉備真備公園Pより周回。登山口わからず、駐車場上の公園北口の道らしき進むも目印なし。取り合えず上に尾根までと急坂を木等に掴まり喘ぎつつ、登ると支線道。すぐ鉄塔道の本道に出て尾根を登って行く。途中1Pへ白テープあり、テープ等辿り進むと(妹山:樹林の中の平坦な)山頂。本道に戻り北へ稜線を進む。途中本来の登山道2か所確認し奥に進んでいくとNO16 鉄塔の南側に山頂。樹林の中の平坦な山頂で、快晴・朝日・冬風が心地良い。来た稜線に戻り、棒澤寺への下山ルートを下る。旧山門跡等の史跡に出て、舗道の登山口表示を確認し、大臣宮参拝し駐車場へ戻る。

○「遙照山」10:10～30(0:20)駐車場より寺参拝し、舗道進むと上のお寺。その左奥の電波塔の間が山頂。三角点あり、樹林の中の山頂、視界今一つ。

○「(三山)龍王山」11:30～40 山頂まで車入る。一等三角点、無線中継所、祠ある平坦な山頂。

○「臥牛山」12:20～14:45(2:25)城見橋公園Pよりシャトルバスでふいご峠。そこから往復(連休で車入れず)。観光階段・石段登り、天空の城:備中松山城(小松山城)。猫の城主を(人気?)確認し天守閣を観光。肝心の山はどこと奥へ進み、大松山城跡を巡り、最高点の天神の丸跡を目指すも、藪で下れない。鞍部より獣道でトラバースし急坂下ると立派な中国自然歩道に出会う。上へと階段道等進み丘に出て樹林の中に臥牛山表示確認。樹林の中の平坦な山頂で三角点あり。下に林道が見えた。自然歩道を下り、大松山のつり橋に寄り道してふいご峠に戻る。観光客でかなり人気の城山。

○「熊ヶ峰」16:45～17:25(0:40)ひろば駐車場より往復。急坂登り進むと熊ヶ峰山頂。三角点ある広場の山頂。山々・海の眺め良い。冬風あり。(彦山:17:30～18:05(0:35)近くに山あり、R251・林道ゲートより往復。電波塔の奥が山頂で一等三角点、樹林の中の平坦な山頂で、展望良い。

○1/19(土)鳥取東4山 晴れ

○「久松山」山頂 13:10「本陣山」同 14:10「雁金山」同 16:10 12:45～16:45(4:00)鳥取博物館駐車場より周回。鳥取城跡の石段道を進み、地元の方に登山口教えてもらい神社口より山入り。かなりの人が歩かれ整備された登山道を進み中腹の神社経て進むと本丸。その上に登ると山上ノ丸の久松山山頂。方位盤あり、山々、鳥取市街、鳥取砂丘・海の眺め楽しむ。隣の山に行く方法を考えつつ、本丸下で地元の方に教えてもらい、東の稜線下り十神林道終点。登り返し、中国自然歩道の4差路経て、先の三差路を右へ進む。神社からの舗道に合流し、すぐ本陣山山頂。山頂は、秀吉の陣跡(太閤ヶ平)・電波塔が並び、神社からの登山者も多く、身近な山。戻りで道間違いし時間ロス(0:30)。来た道戻りで久松山の下りで幾人もの登山者に挨拶。登山口より車道を下ると西坂道に出会い、その道をトラロープ・ピンクテープに助けられ進み、3合目(松の丸)より先に見える山へトラバース気味に進み、住宅地の市道に出る。舗道の坂を登りトンネル前の平和塔遊歩道入口より階段の遊歩道進むと雁金山山頂(平和塔)。街並み・久松山の眺め良い。来た道戻り、お寺へ行く途中よりコンクリ階段道、道らしきとピンクテープ頼りにトラバースし尾根登ると3合目に戻り、来たロープ道を慎重に下り、舗道へ出て駐車地に戻る。

○「霊石山」晴れ 17:25~40(0:15)車で山頂まで行き散策。パラグライダー基地より鳥取市内の街明かり、川、国道の車の明かりの景観楽しむ。

○遠征も土日では、これが限界(片道運転時間 12 時間、走行距離 850 km)。明日大寒だが、暖冬で雪ほぼなく、山も車の走行も奇跡的に助かる。今回はここまで。2月の3連休まで山行は冬眠。

○1/12(土)13(日)兵庫北2山、鳥取東4山 これでは兵庫県を踏破し、近畿地区を終了。残りは、中国四国九州地区と北海道。遠方でかなりの移動時間を要し、山行報告は少なくなりそう。

○1/12 兵庫北1山「矢次山」11:55~16:35(4:40)曇り 宮井川・広畑橋口より往復。山の案内なく、林道を行ったり来たりしながら策なく、とりあえず奥に進む。雨水に削られた林道進むと作業道との分岐。ネットで見た駐車地・登り口で安堵し右の作業道へ。途中旧作業小屋で遠くに作業の音を聞きつつ、進む。造林作業路矢次線の標柱経て進むと、雪が深くなり、少し潜りつつ、進み4差路。直進し進むとさらに雪が深くなり、獣の足跡等辿りながら進む。次の2差路で右へ進み山を南側へ巻くように進み、南方からの尾根登り口。坂を進むと程なく矢次山山頂 14:50。植林・落葉樹の境界で三角点あり、積雪 25 cm。平坦な稜線のピークで東側に山々・街の眺めあり。来た道を淡々と戻る。

○1/13 晴れ 兵庫北1山「牛ヶ峰山」6:20~8:00(1:40)林舗道登山口より往復。暗いうちからライト付け出発。道を進むとすぐ鳥居。参道を進むと次第に残雪現れ、深そうな参道歩きを避け斜面の雪の少ないところを選び進む。平坦な樹林帯に出て方向不明に。獣の足跡多く、その方向に進む、急坂を雪の少ないところを探しつつ登り、稜線に出て、獣の足跡等と山容から山頂方向を確認し、稜線を進む。距離表示が出て、参道らしきも出て、雪に潜りながらも淡々と進み、階段経て牛ヶ峰神社。参拝し裏手の山へと獣跡等辿り登ってゆく。平坦となり、牛ヶ峰山山頂。樹林の中、二等三角点あり、積雪 25cm。山々・朝焼けの眺め良い。来た道戻り、牛ヶ峰神社でご来光と神社を参拝し、来た道を確認しながら戻る。

○「金峯山」9:00~10:30(1:30)鳥居先の林舗道口より往復。林舗道の緩やかな坂を淡々と進んでゆく。金峯神社で参拝し、進んでゆくと鉄塔群。階段坂登り進むと金峯山山頂。電波塔の間の山頂で三角点あり。山々・海・街・朝日の展望を楽しむ。来た道を一気に戻る。

○「二上山」11:10~13:20(2:10)二上山トンネル南側口より往復。登山口不明でトンネル近くに、山の案内表示ありその表示を辿る。トンネル上部から獣の足跡の道を進むと城跡まで 0.3k の分岐。尾根に出て急坂道進むと 1P。福部アルプス分岐。右へ稜線を下り、急坂の階段道登ると二上山山頂 11:35。一の平城跡の平坦な山頂で、海・街・山々の眺め良い。下りは、1Pより福部アルプスへ進むも似非名の 2、3Pであきらめ 1Pに引き返す。さらに下りで尾根を直進してしまい、別な作業道に下り、仕方なく作業道を鞍部より登り返しその終点で気づいたイノシシの群れが坂を一気登って行った。あつけにとられるが、いまだ現在地不明で、やむなくその急坂をゆっくり登り、見覚えのあるアルプス稜線尾根に出て1Pに再び戻る(計 1:20 のロス)。下り道の間違った地点を確認して好天の中、無事戻る。

○「稲葉山」15:30~15:45(0:15)宇部神社口からの林道を車で山頂近くまで行き、笹等の小藪分け進み、稲葉山山頂。笹・灌木の中の平坦な山頂。昔歌に度々詠まれた山。(登山口探して四苦八苦し時間ロス)。帰りに宇部神社参拝。人気の神社でまずまずの人手で賑う人気の神社。

○「摩尼山」16:45~18:05(1:20)摩尼神社口より往復。時間ロスもあり、遅くの出発で急ぐ。神社からの登山口不明で、やむなく進むと、方向が違うとの声あり、途中より坂を登り本道に出る。只管急ぎ進んでゆくと 1P。何も表示ない。その先に下ると立岩。拝み、1Pへ戻り、仕方なく来た

道を引き返すと、見落とした小さな山頂への表示を確認。その方向へ進み 1P。ここで三角点と最高点は分かれる。三角点方向は下りのため、最高点へ下って登り返す。進むと最高点の摩尼山山頂。樹林の中の平坦な山頂。半月を楽しみ戻る。本道へ出て、一気に下り進み、展望地。鳥取市内の街明かりがキレイ。そのまま寺まで急ぎ戻るも、下りの道がない。周りを確認すると閉門され通行不可。薄暮の中、10m程の垂直の石垣を忍者宜しく、慎重に手・足場確認して下り、長い石階段経て無事戻る。すでに夕闇で市内の目指す山々の方向も真っ暗で、3 連休の混雑を恐れ、今回はここまで。

○年末年始第3弾

○平成 31 年1月1日(火)岡山東 4 山

○「八塔寺山」6:20~7:40(1:20)八塔寺壽光庵より周回。薄暗いうちに出発。獣ゲート経て八塔寺。登山口不明で止む無く寺裏の獣道急坂を上へ上へと昇り 1P。先に広いスペースあり進むと本道(ふるさと村からの)。その道を辿り、88石仏を拝みながら登り、旧小屋経て進むと八塔寺山山頂 6:50。樹林の中の平坦な山頂。山々の眺めあり。来た道戻り、旧小屋が展望の良いところで、日の出近くのため待機。初日の出を拝み、来たルート戻るも、途中でショートカットしたため違う舗道に下り出た。近くの三好神社に出て参拝しそこから続く道を辿り八塔寺経て戻る

○「神ノ上山」9:15~12:50(3:35)和気鶉飼谷温泉口より周回。温泉脇の表示あるゲートより入るも道不明。仕方なく急坂の獣道経て尾根。そのシダの生い茂る道を進み和気アルプスの前ノ峰、次のピークが、穂高山その次が涸沢峰。ここから南へ辿り下り登り返すと(竜王山)山頂。三角点と祠あり、拝み、備付けのノートに記載。樹林の中の岩のある山頂。快晴で心地よい。涸沢に戻り稜線を下り、キレット最鞍部。登り返すと次のピークがジャンダルムで先へ進み、温泉・槍分岐の先が奥ノ峰。さらに進み、剣分岐を右へ進むと神ノ上山山頂。先客(7名)おり挨拶。好天で半袖シャツのまま、古老と山話。二等三角点ある広場の山頂。北に雪被る蒜山・那岐山、氷ノ山が見える。戻りは、温泉・槍分岐へ進み、槍ヶ峰、白岩山経て、大きな岩の急坂を慎重に下り、町のクリーンセンター口に出て温泉施設まで戻る。

○「熊山」13:35~14:40(1:05)熊山山頂駐車場より周回散策。熊山神社へ参拝し、遺跡跡、展望台・猿彦神社参拝し駐車場に戻る。その間に幾組かの参拝者に挨拶。南へ舗道を進み、電波塔への枝道進むと電波塔の脇(間)に熊山山頂。二等三角点あり、刈り払いされているが視界は今一つ。帰りはショートカットし戻る。

○「芥子山」15:40~16:35(0:55)大多羅寄宮跡より往復。登山口分からず、山を目指し、ブドウ畑の間の舗道を進み、獣道の尾根を山へと登り進むと立派な舗道に出る。階段坂を登ると芥子山山頂。広場の山頂で川。街の眺め良い。先へ進み、無人のレーダー基地に出てフェンスの先に三角点を確認して、来た小藪尾根経て戻る。

今回は、Uターンの交通大渋滞を恐れてここまで(年末寒波で少し苦戦)。